

42787

教科書文庫

4
290
41-1941
20000 14528

Kodak Gray Scale

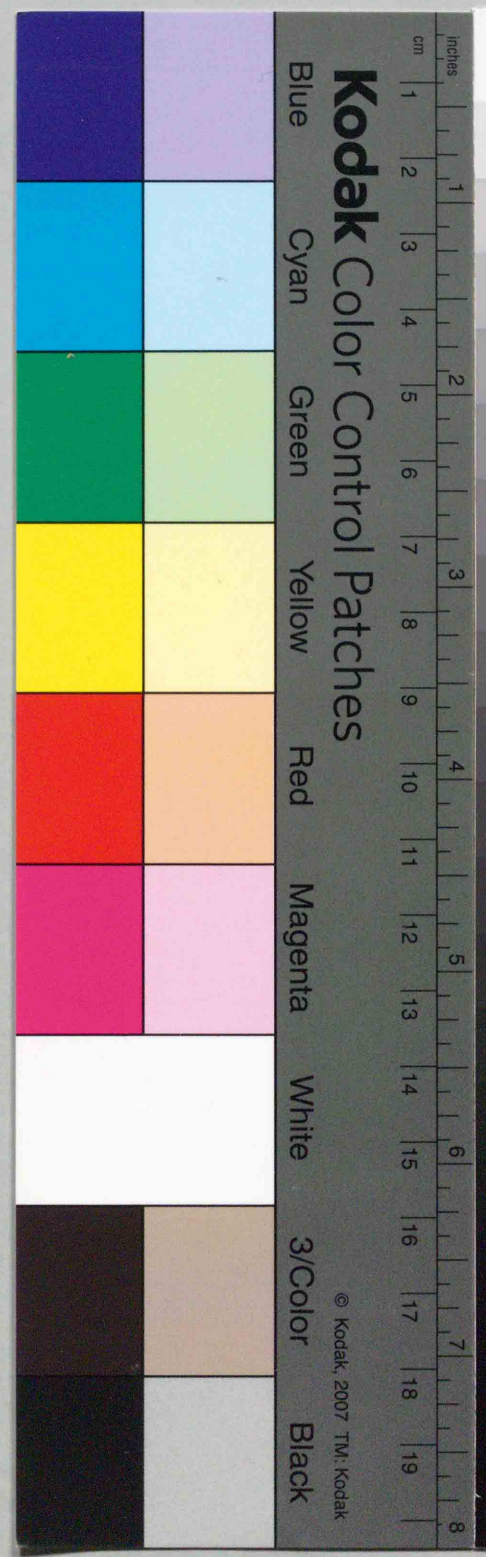
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak 2007 TM: Kodak

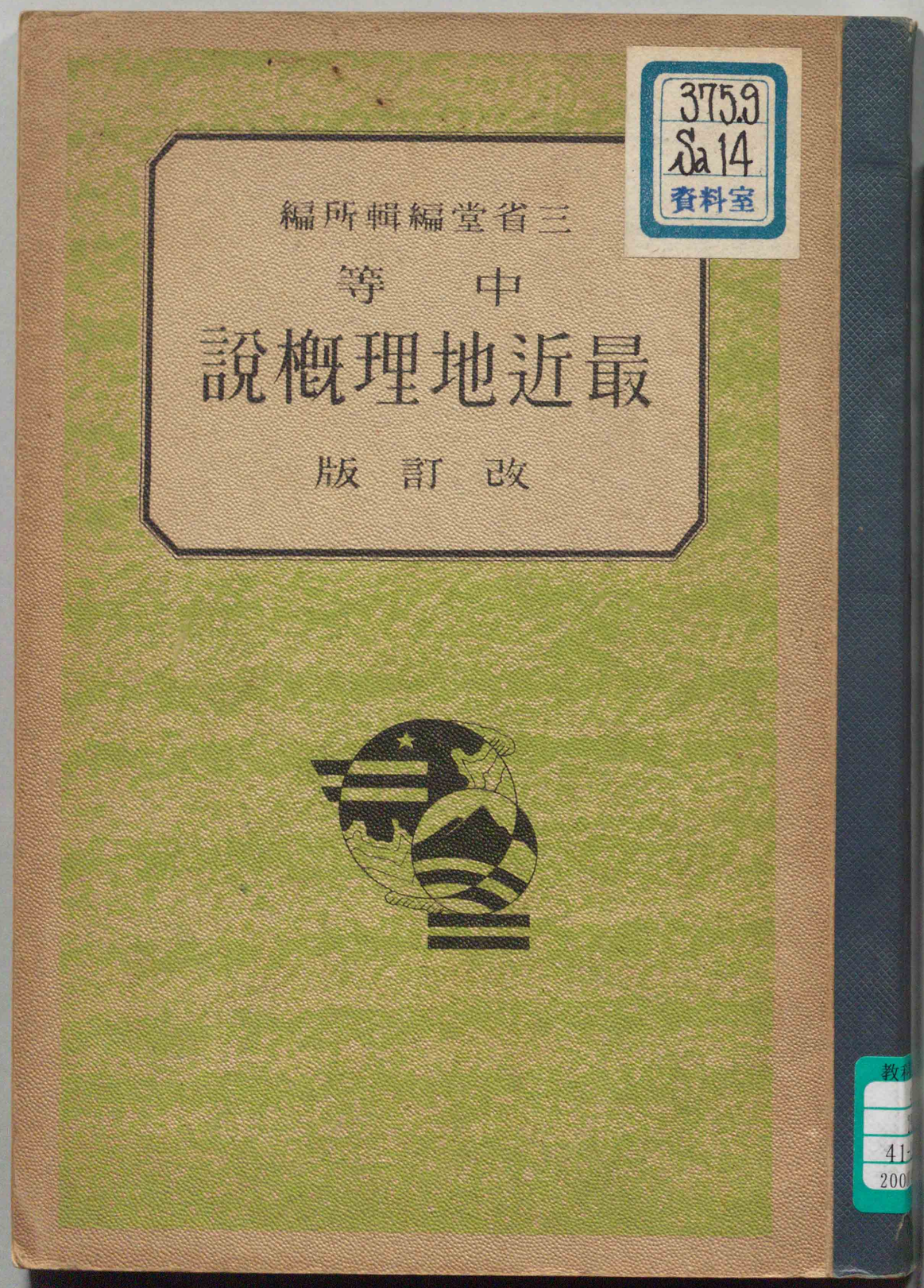


375.9
Sa 14
資料室

編所輯編堂省三
等 中
說概理地近最
版訂改



教科
41-
200



日九十月二年六十和昭
濟定檢省部文
用科理地校學中

教科書文庫
4
290
41-1941
2000014528

資料室

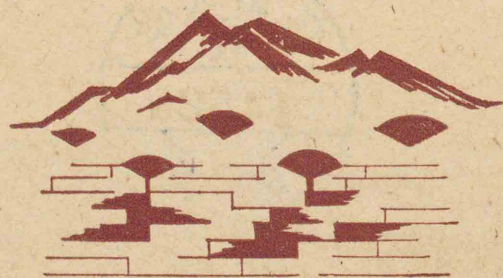
375.9
Sa14

編所輯編堂省三

等 中

說概理地近最

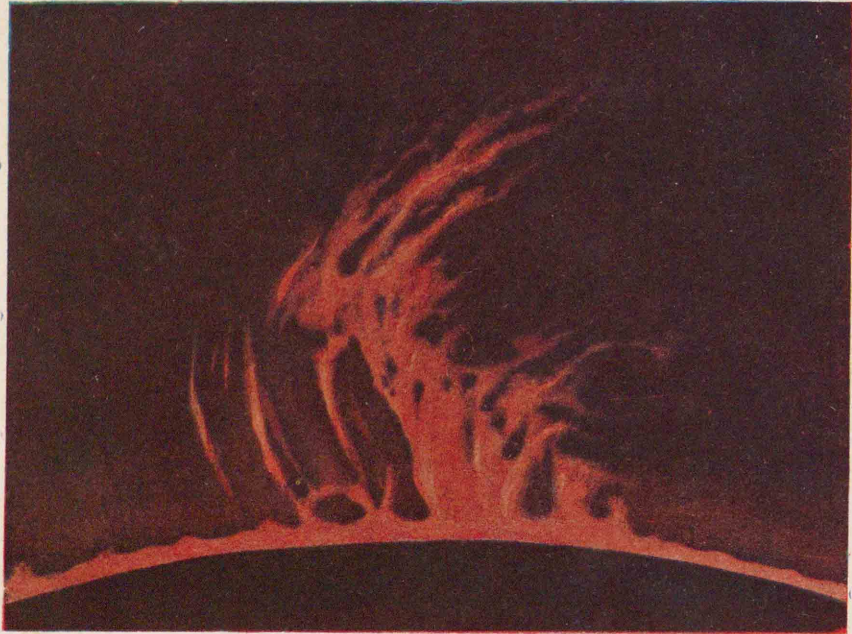
版訂改



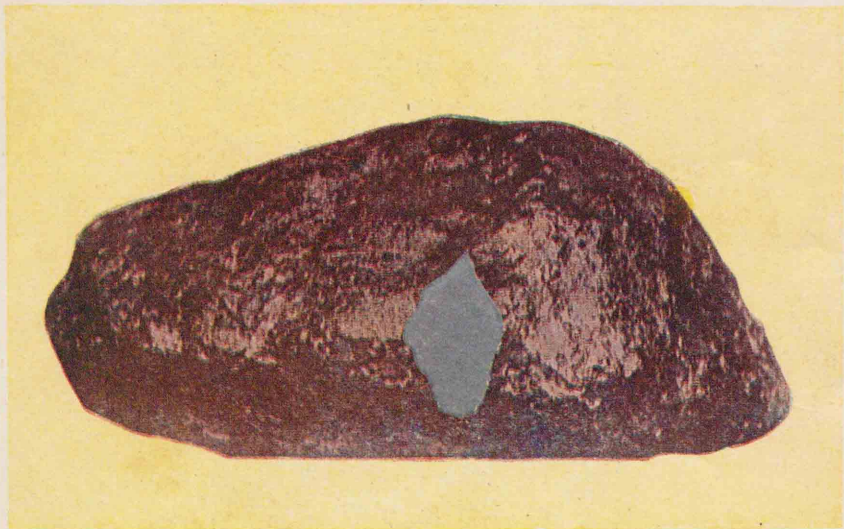
広島大学図書

2000014528





太陽の火山



隕鉄

廣島大學
圖書印

広島大学
教
14528
圖書

太陽の火峰 太陽には普通に光つた部分(光圏)と、その周りに地球の空気層に當る部分(彩圏)がある。この彩圏の周圍からは常に噴煙状のものが放出されてゐる。之を火峰又は噴氣峰と呼ぶ。大いさは一定してゐないが、時に四十五萬軒餘の高さに噴騰することがある。圖はそれを日食皆既の時に見た光景。

隕鐵 我が國に落下した隕石の數は少くないが、隕鐵は甚だ稀である。圖は滋賀縣栗太郡下田ノ上村で發見、落下年月不詳したもので、科學博物館の所藏に係り、左右の長さ五十糎餘、前後の長さ四十糎、重量約百七十斤に及び、本邦で發見された隕鐵の中、最大なものである。中央の一部が銀光となつてゐるのは、内部が鐵であることを示す爲に、切口を附けたものである。

附記 本邦發見の隕鐵で著名なものが三箇ある。一は明治二十七年丹波に墜落し、現に京都帝國大學で保管中のもの。一は越中で發見、落下年月不詳し、その一部は嘗て榎本子爵が流星刀に作られ、殘餘は科學博物館に所藏されてゐる。而して一は即ち本圖に掲げたものである。

辯 言

本書は新定の教授要目に則り、中等學校の地理教科書とする爲に編纂したもので、^中最近日本地理^及 ^中最近世界地理と緊密な連絡を保ち、一貫せる方針の下に、地理教授の本旨を達成せしめんとするものである。

本書の編纂に當り、意を用ひた要點は左の通りである。

一、地理概説は、教授の範圍が甚だ廣く、教授時數は割合に少いから、他學科と説明の重複を考慮して教材を取捨し、教授時間を最も有効に利用し得るやうにした。

一、改正要目の趣旨に従ひ、自然と人文との教材を約一と二の割合に配合し、全體として過大の弊に陥らないやうにした。

一、地理教授の中でも、特に概説にあつては、數量等の比較對照を必要とする場合が多く、文字で讀ましめるよりも、圖表で示す方が理解し易

いから、グラフ・マップ等を極めて豊富に挿入した。
一、近年世界の情勢に伴ひ、經濟地理の重要性を増大したので、特にその記述に意を用ひ、又我が國の産業統計は總て昭和十二年度以前の分を採ることにした。

一、保健上の必要から、本文及び圖表中の文字を大きくし、總て文部省告示の活字印刷規定に據ることにした。

一、全卷を通じて、我が國との對照に意を用ひ、我が國土國體が眞に萬邦に優れた所以を認識せしめ、日本精神の作興に努めた。

本書に挿入した統計圖表は、中央氣象臺の調査諸官省の統計表諸會社の報告、理科年表、國勢グラフ等の數によつて作製したものが多く、又内容の修正に關しては、當事諸賢の經驗に基く注意に負ふものである。茲に特記して感謝の意を表す。

昭和十五年十一月

編 者 識

目 次

第一章 地球	一
第一節 地球の位置	一
第二節 地球の實體	五
第三節 地球の運動	七
第四節 地表の描寫	一〇
第二章 陸地	一四
第一節 陸地の現状	一四
第二節 陸地の變動	一四
一 内力	一五
二 外力	一九
第三節 地形	二三
第三章 海洋	二四

第一節 海と海水……………二四

第二節 海水の運動……………二五

第四章 氣候……………二六

第一節 大氣……………二六

第二節 降水……………三三

第三節 天氣と氣候……………三四

第五章 住民……………三五

第一節 人種と民族……………三五

第二節 言語と信仰……………四〇

第三節 人類の生活……………四三

第四節 人類の住所……………四四

第五節 自然と人生……………四八

第六節 文化……………五一

第六章 産業……………五三

第一節 農業……………五四

第二節 牧畜……………五九

第三節 林業……………六一

第四節 水産業……………六二

第五節 鑛業……………六四

第六節 工業……………六七

第七節 商業 附觀光業……………七三

第七章 交通……………七七

第一節 陸運……………七七

第二節 水運……………八〇

第三節 空運……………八四

第四節 通信……………八五

第八章 政治……………八八

第一節 國家の組織……………八八

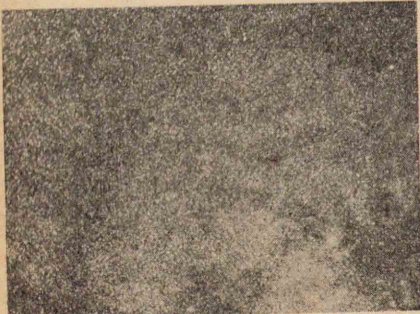


中等 最近地理概説 改訂版

第一章 地球

第一節 地球の位置

星 大空に輝いてゐる無数の星の中で、我等と最も関係の深いのは、太陽と月であるが、北斗七星や北極星も、方位やその他のこと



望遠鏡で見えた銀河の一部



恆星(金星の光も美しいが、帯状をなす銀河も、秋天の夜を飾る偉観である。此等の星には、恆星、太陽、北極星等、遊星(明星、地球等)、衛星、月等の別がある。

第二章 國家の版圖……………八九

第三節 國勢……………九三

第四節 國際關係……………九五

第九章 世界に於ける我が國の地位……………九六

第一節 我が國土……………九六

第二節 我が國民……………一〇〇

第三節 我が發展……………一〇三

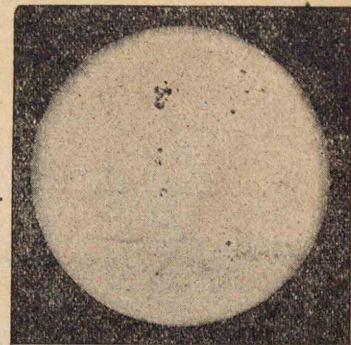
目次終……………一〇三



で景光ため眺を空の方西に刻夕の時或 眺の空天
るゐてい輝くし美が星のく多め始を星木・星金・月

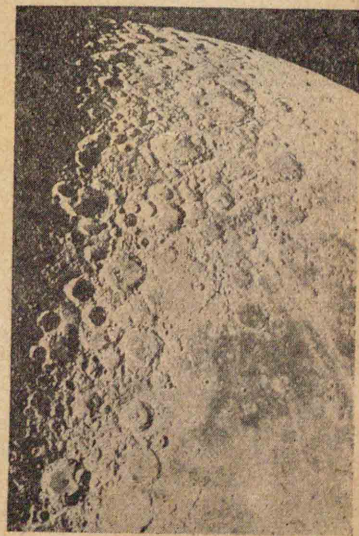


のこで星彗一レハたそは現に月五年三十四治明 星 彗
るえ見に目の々我てれは現び再とるぎ過餘年七十七は星

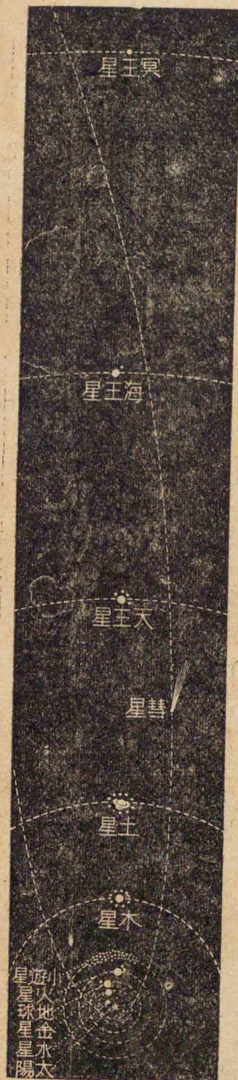


太陽の表面にあつてゐる黒點

太陽と月 太陽は常に
強烈な光と熱とを放ち、
地球上に森羅萬象の變
化を起し、又生物に生活
の源泉を與へる。その表
面は燦然と輝いてゐる
が、處々に黒點がある。月



望遠鏡で見たまの月表面



太陽系の星と、九大遊星と、一群の小星

太陽系

太陽を中心として、水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星

は表面に多くの噴火口の如きものがあり、空氣も水もない暗體で、生物は居ないらしい。月は略同一の時間に、一自轉と一公轉とをすから、地球に對しては常に同一の半面を向けてゐる。

星	直径比較	衛星	摘要
太陽	110,000	0	光が地球に達するに八分餘かゝる
水星	0,3	0	太陽に近い爲肉眼では見出し難い
金星	0,9	0	明星と呼ばれ曉方と夕方に現れる
地球	1,000	1	太陽との平均距離は一億五千萬軒
火星	0,5	2	海陸もあり地球と状態が似てゐる
木星	11,0	9	遊星中で最も大きく光も最も強い
土星	9,0	10	釜の鏝に似た輪體が附屬してゐる
天王星	4,3	4	肉眼で見えるのは極めて稀である
海王星	4,5	1	一八四六年ドイツで発見された星
冥王星	約1,00	?	一九三〇年米國で発見された新星
小遊星			一千箇に餘る小さい星の群である
彗星			光る尾を曳き俗に彗星といはれる
流星			落下の際空氣と摩擦して光を出す

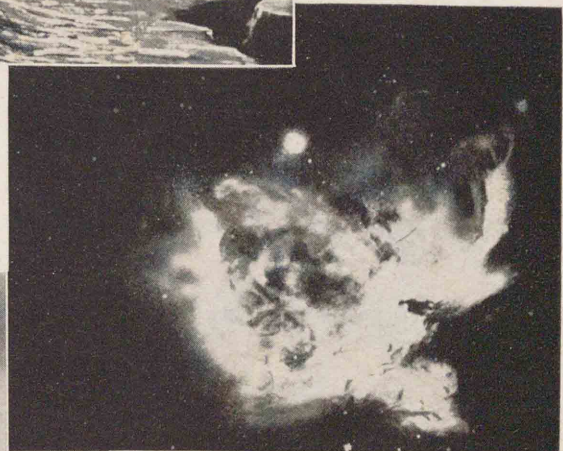
るく輝いてゐる。之を地球から見ると、月の位置によつて、三日月ともなり、又満月ともなり、見る人毎に種々の感じを懐かせる。古來之

遊星がある。遊星には衛星を伴ふものが多い。遊星衛星は、略同一の平面上にあつて、常に一定の軌道を運行してゐるが、この他に多くは軌道の定らない彗星、流星がある。此等の星の一群を總稱して太陽系といふ。

月の盈虚 月は太陽の光を反射して、



月から見た地球 地球から月を見たのと同じく輝いてゐるが大きさは約四倍に達し且天空は常に暗黒で星が現はれてゐる

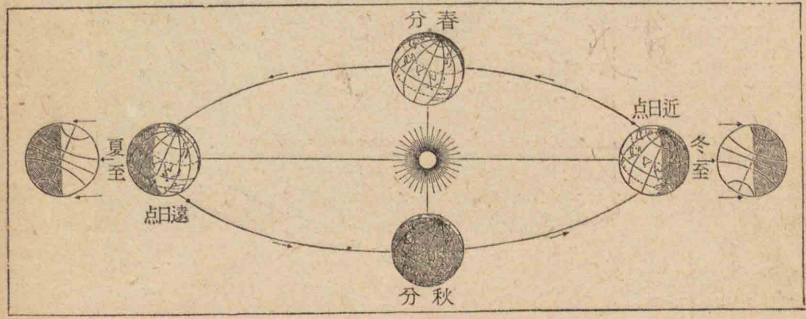


日食 日食の時に映した天空の寫眞で附圖は日食皆既の時の太陽を示したもの



オリオン大星雲 俗に三ツ星と呼ばれる星(殆ど同大の星が三ツ直線に並ぶ)の邊をオリオン庭といひ大星雲は此處にあつて無月の時は肉眼でも淡く見える

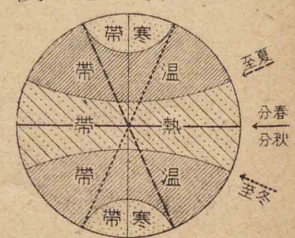
マゼランの遠征隊が本國に歸つた時はスペインでは一五二二年九月七日であつたが航海日誌は九月六日になつてゐたその頃は之を日誌の誤記と考へてゐた



時間進ませる必要がある。斯くて三百六十度地球一周を進めば、二十四時間進ませることとなつて、日数が一日多くなり、反對に西に向へば、日数が一日少くなるから、この一日を調節する爲、太平洋中に日附變更線を設け、この線を東に越せば同じ日附を繰返し、西に越せば一日を飛ばして數へることにしてゐる。

四季の變化

地軸は軌道面に對し、凡そ六十六度半の角度を保つてゐるから、公轉してその位置が移るに従ひ、太陽から受ける光線その方向が違つて來る。春分(三月二十一日頃)には、太陽が赤道を直射して、晝夜を平分し、夏(六月二十一日頃)には、太陽が北回歸線上を直射し、北半球は夏となつて晝が長く、北極では晝のみが續く。秋分(九月二十三日頃)には、再び赤道を直射して、晝夜を平分し、冬(十二月二十三日頃)には、太陽が南回歸線上を直射し、北半球は冬となつて晝が長く、北極では夜のみが續く。之から太陽は再び北に移つて四季を繰返す。地球上には、太陽から受ける光線の強弱により、熱帶・溫帶・寒帶等の氣候帯を生ずる。



地球に於ける五帶

道上を直射して、晝夜を平分し、冬至(十二月二十三日頃)には、太陽が南回歸線上を直射し、北半球は冬となつて晝が長く、北極では夜のみが續く。之から太陽は再び北に移つて四季を繰返す。地球上には、太陽から受ける光線の強弱により、熱帶・溫帶・寒帶等の氣候帯を生ずる。

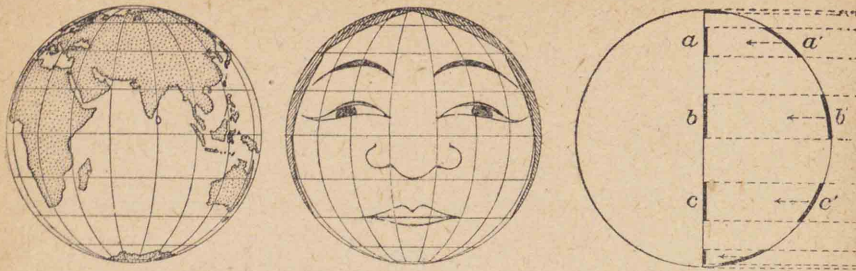
曆

地球は自轉の外、公轉によつて位置を變へるから、太陽の南中から次の南中までは、一自轉の時間よりも稍長くなる。之を太陽日といひ、一自轉間を恆星日といふ。太陽日の長さは、軌道上に於ける地球の位置によつて違ふから、之を平均したものを平均太陽日といひ、我々の普通に用ふる一日で、即ち二十四時間である。

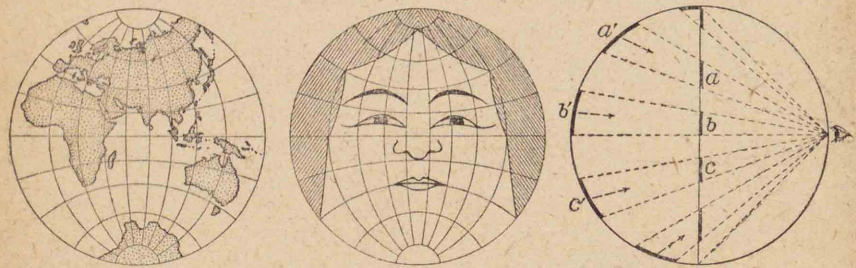
平年と閏年

地球の一年は、三百六十五日五時四十八分四十六秒であるが、曆では便宜上端數を省き、三百六十五日を一年とし、之を平年とする。又四年毎に、端數から生ずる一日を加へて、三百六十六日の一年を設け、之を

近日點では公轉速度が大であるから太陽日が長く遠日點では之に反して太陽日が短い



いし正が部心中で様同とのたし映を球地に鏡は法圖射直



るえ見てぎ過み縮は部央中がいし正が圍周は法圖射平

地圖 地球表面の有様を或割合に縮め、平面に寫したものが地圖である。地球の形は彎曲してゐるので、正しく平面に寫すことが出来ないから、方向距離面積等の、何れかに不自然な點が起る。故に使用の目的によつて、地圖の描き方に種々の方法がある。

地圖の投影法 地球を無限の遠方から見て、前側の半球を寫したものを直射圖法といひ、地表の一點から見て、裏側の半球を寫したものを平射圖法と呼び、共に半球圖を描くに使用する。又地球を圓柱形の紙で包み、投影したものを圓柱圖法といひ、その一種のメルカトル圖法は、

神武天皇即位紀元數を四で整除することを出來る年を閏年とする。但紀元數から六百六十を減じ、百で整除し得るものの中、で更に四で整除することの出來ぬ年は平年である。

閏年と呼ぶ。併し四年間の端數は、一日に足りない。の日に之として

一般に用ひられる上暦の語

春分	秋分	夏至	冬至	立春	立夏	立秋	立冬	節分	彼岸	入梅	土用
三月二十一日頃	九月二十三日頃	六月二十一日頃	十二月二十三日頃	二月五日頃	五月七日頃	八月九日頃	十一月八日頃	十一月八日頃	立春の前日	春分、秋分を中心とした七日間をいふ	六月十二日頃から約一箇月間霖雨が多い
太陽が赤道を直射し晝夜平分	同	北半球では晝が長く夜が短い	北半球では晝が短く夜が長い	北半球では晝が長く夜が短い	北半球では晝が短く夜が長い	北半球では晝が短く夜が長い	北半球では晝が長く夜が短い	北半球では晝が短く夜が長い	北半球では晝が長く夜が短い	北半球では晝が短く夜が長い	北半球では晝が長く夜が短い

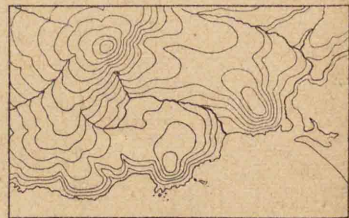
第四節 地表の描寫

加へるから、曆は次第に季節よりも遅れることになる。よつて四百年間に三回だけ閏年を廢して平年とし、曆と季節との一致を計つてゐる。之が我等の使用する新太陽曆である。

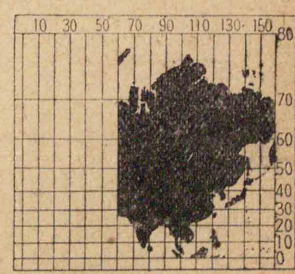
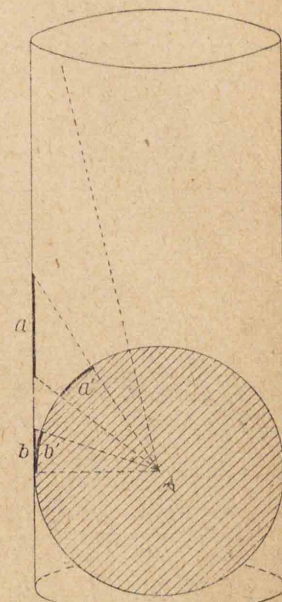
地圖には一般に縮尺及び方位等をも記入するものである

描くには、先づ經緯線の投影を終り三角測量によつて地物の位置を定め、水準測量によつて海抜高度を測定し、更に海岸線山川都邑等を夫々正確な位置に記入するのである。近年寫眞測量により、迅速に地圖を作る方法もある。又土地の高低や傾斜の緩急等を表すには、普通に等高線(曲線式)毛羽暈滲式ポカシ等を用ひるが、補助として此等を併用し、又は彩段式にすることもある。

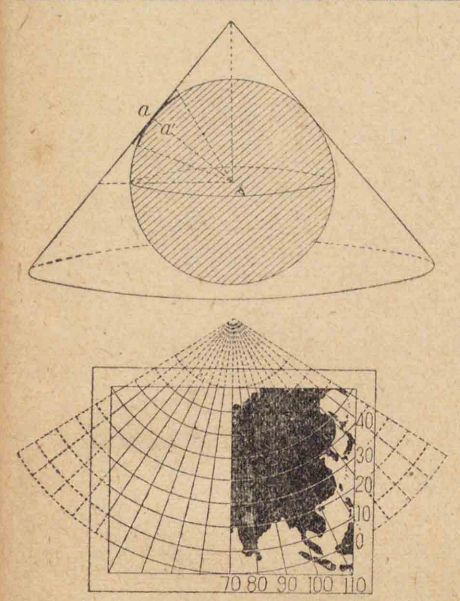
地圖の種類 主として陸地の状態を圖示したものを地形圖といひ、地理學の基礎をなすものである。又専ら航海に必要な海洋の有様を表した海圖もある。特殊なものには地質圖産業圖等があり、又航空の發達に伴ひ、之に必要な航空圖も製作された。



上羽の地形を表現する等高線と毛羽暈滲式ポカシ等を用ひるが、補助として此等を併用し、又は彩段式にすることもある。

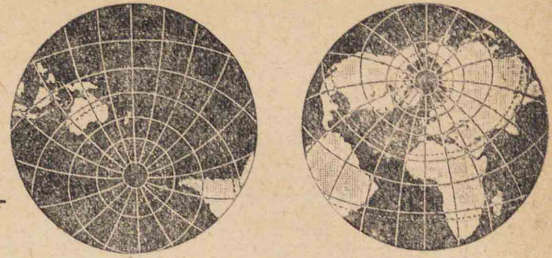


圓柱圖緯線が南北に直線となり、經線が弧となる。法附は、南緯の中央に在る。



圓錐圖法は、圓錐の紙で包み、投影したものを用ひるので、海圖に使用される。地球を圓錐形の紙で包み、投影したものを圓錐圖法といひ、一部分を比較的方向が正しく、航海に都合がよいので、海圖に使用される。地球を圓錐形の紙で包み、投影したものを圓錐圖法といひ、一部分を比較的方向が正しく、航海に都合がよいので、海圖に使用される。地球を圓錐形の紙で包み、投影したものを圓錐圖法といひ、一部分を比較的方向が正しく、航海に都合がよいので、海圖に使用される。

地圖の製り方 地圖を



右は陸半球で左は水半球である

第二章 陸地

第一節 陸地の現状

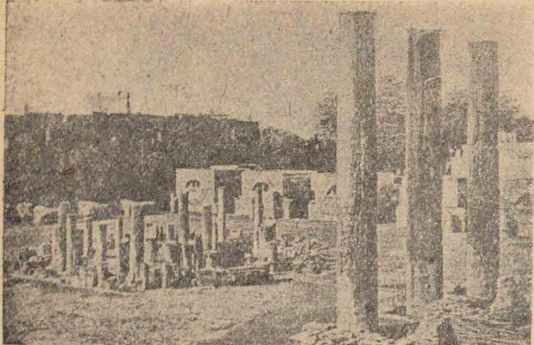
水陸の分布 地球の表面は、陸と水とに分れ、その割合は陸一に對し、水は約二・七である。水陸の分布は極めて不均であるから、陸の大部分を含む陸半球と、全面殆ど水である水半球とに分けられる。

大陸と島 陸地は大陸と島とに分れ、島には陸島、日本、イギリス等と、洋島、マリヤナ諸島等とある。前者は大陸の一部が、侵蝕又は陥没等によつて分離したもので、洋島は火山島や珊瑚島の如く、大陸と關係なく成立したものである。

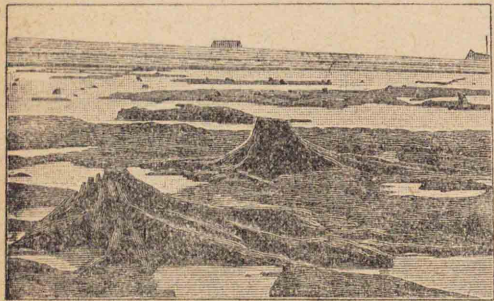
第二節 陸地の變動

山河は永遠に變化のないやうに見えるが、實際は絶えず變動し

大陸漂移説によれば、陸地は西方に向つて移動するといふ



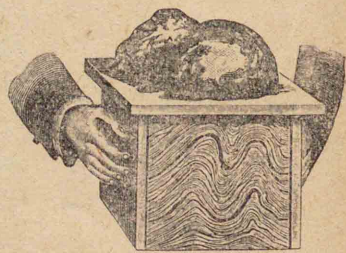
タイタリの海の岸にセラスピラ殿の遺址で隆起と沈降をとる線返す



て、少しも止む時がない。この變動を起す力を、内力と外力とに分ける。

一 内力

造山作用 地球は放熱によつて、次第に縮小するが、地殻は固體であるから、横に壓合つて褶曲を生ずる、之を造山作用といふ。

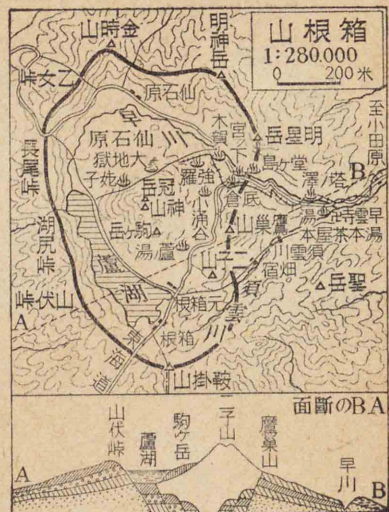


褶曲作用を示した模型

イギリスの大山脈は、多く造山作用で出来たもので、斯ういふ地盤の變化は、今も絶えず行はれ、海岸には隆起する處や、沈降する處がある。海水の蝕痕が、現在の汀線よりも高い處にあるのは、土地の隆起した證據で、森林の址が海底に残つてゐるのは、土地が降下した爲である。

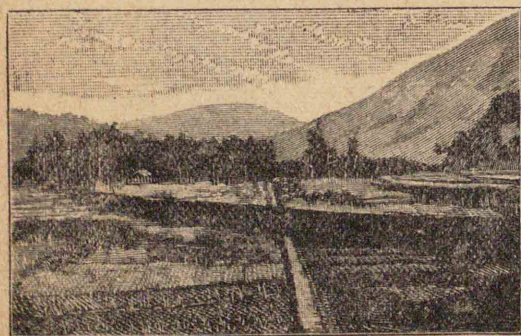
に特效がある。温泉の時を定めて噴出するものを間歇温泉といふ。

地震 地盤の一部に、急激な變動が起り、その震動を四方に傳へるのを地震といふ。地震には火山地震、陥落地震、斷層地震等がある。我が國に起る大地震は、何れも斷層地震で、その慘害が著しい。

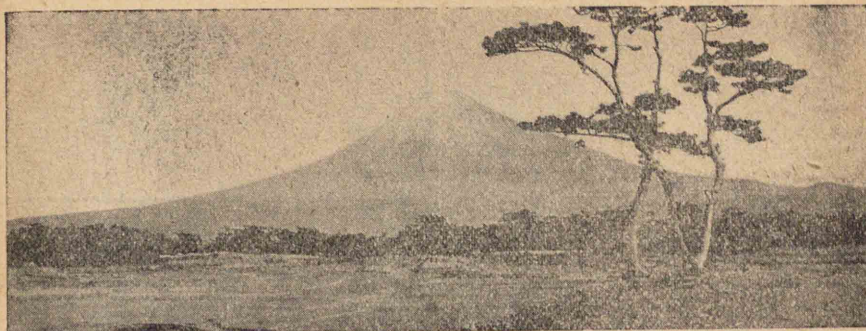


複式火山の舊火口壁を外輪山、その中の新火山を火口丘といひ、その間の低地を火口原といふ。火口原の水が、外輪山を破つて流出する處を火口瀬と呼ぶ。

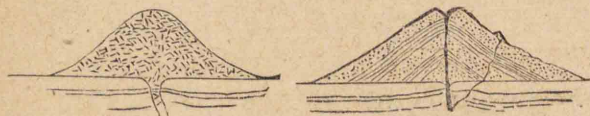
火山は活動を休止して後、種々の瓦斯體を噴出することがある。之を噴氣孔といふ。温泉も火山地方に多い。温泉はその含有成分により、療養



層斷谷尾根縣阜岐た來出に震地尾濃



るあが野裾い廣に麓し斜急は部上しなを體錐圓は山士富

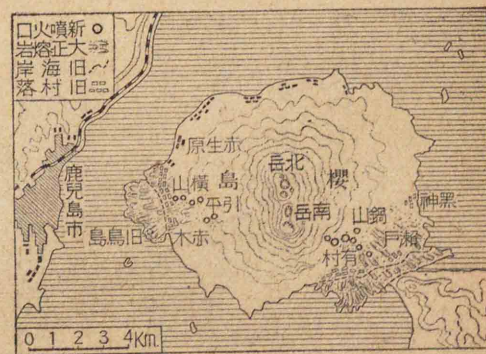


面斷像想の山火狀塊は左・山火狀層は右

火山 地球の内部から、地殻の弱い處を通じて、熔岩や水蒸氣を噴出することがある。之を火山作用といひ、噴出物の爲に出來た山を火山といふ。

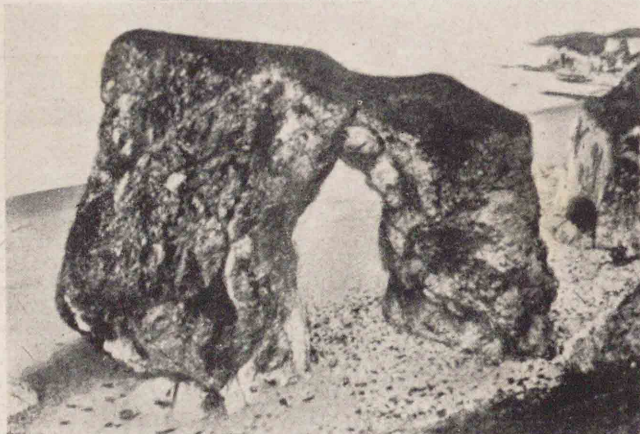
火山の噴出物には、水蒸氣、熔岩、泥流等の外、火山弾、火山礫、火山砂、火山灰、火山毛等がある。此等の噴出物が、相重つて生じたものを層狀火山（富士山式といひ、略、一回の噴出により、熔岩のみを堆積して出來たものを塊狀火山といふ）。

複式火山 舊火口の中に、新火山を噴出したものを複式火山といひ、箱根山、阿蘇山等はその好例である。



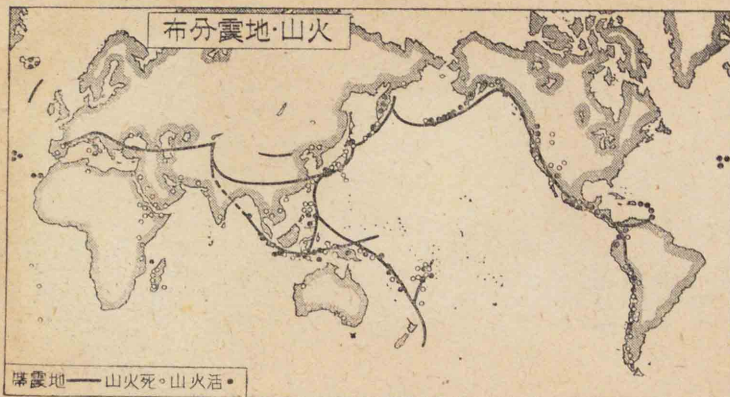
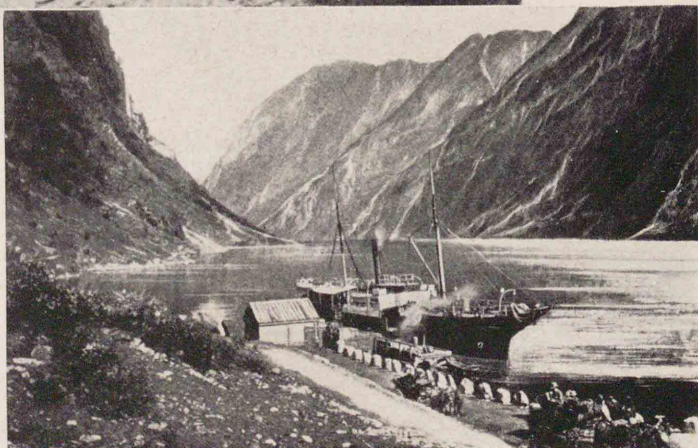
流岩熔たし出流に火噴の島櫻

隆起珊瑚礁 海中に出来た
珊瑚礁が次第に隆起して今
は高い岡をなし此處に神社
がある琉球の波上宮

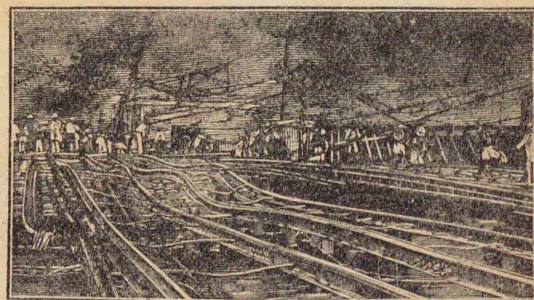


水面上の蝕痕 海岸に洞門
や洞穴が並び嘗ては海水の
侵蝕を受けた土地であるこ
とを示す(アイルランド)

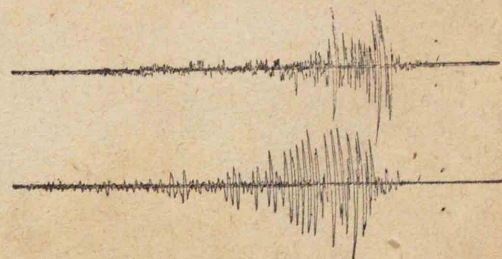
峡灣 嘗て氷河の爲に鑿た
れた深谷が土地の下降によ
り其處に海水を満たして峡
灣を造る(ノルウェー)



地震は弱い初期微動
に始つて主要動となり
次第に終期
動に移つて
もとの平靜
にかへるも
のである。そ
の震動は、上
下動と水平

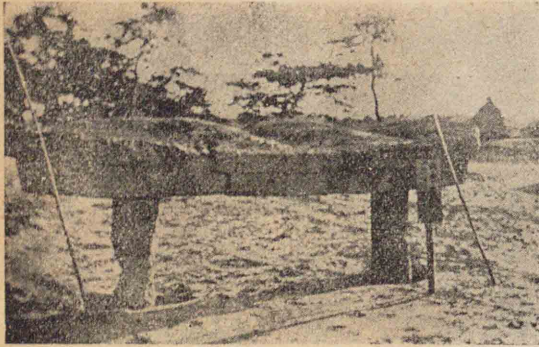


(京東)條軌道鐵たし曲屈際の震地東關



たし録記が計震地の臺仙を震地東關
るあて倍五・三約の圖本は動實でのも

動とに分れ、震源附近では上下動が最も強く、之から遠
ざかると水平動のみとなる。この震動を測る器械を地
震計といひ、振動を感じない不動點を作り、之に指針を
附け、震動する物體を測る装置である。
地震の注意 我が國の如き地震の多い國では、耐震家屋の



居鳥の岸海縣岡福たれらめ埋に丘砂



洞灰石い多の筈石・石乳鍾

地下に石・灰・洞と呼ぶ空洞を作ることが
地下水 地下水は種々の岩石を溶解し、
しい變化を與へる。
學的(溶解)の二作用を働かし、地形に著
の變態をなし、地表に器械的(破壊と、化
水は斯く循環する間に、氣體液體・固體
て雲となり、雨雪となつて地上に降る。
泉水は河となつて海に注ぎ、一部は蒸發し

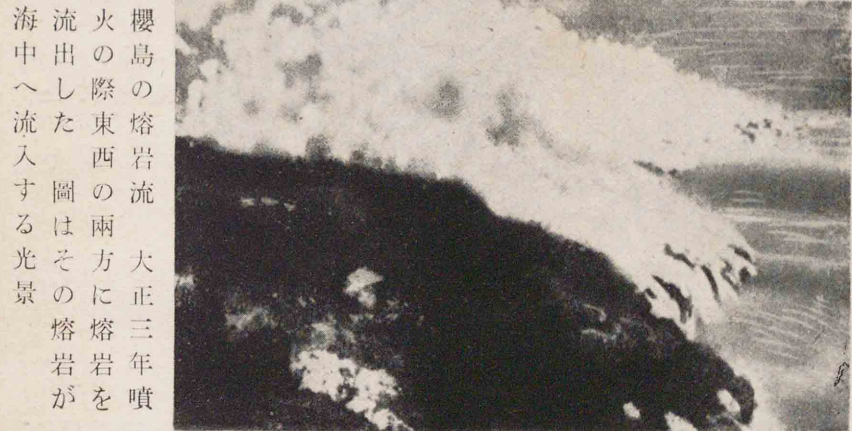
大氣の作用 大氣は溫度の變化や、風雨の作用により、絶えず岩
石を分解する、之を風化といふ。又大氣は、風となつて砂を飛ばし、海
岸や沙漠に砂丘を作ることがある。

二 外 力

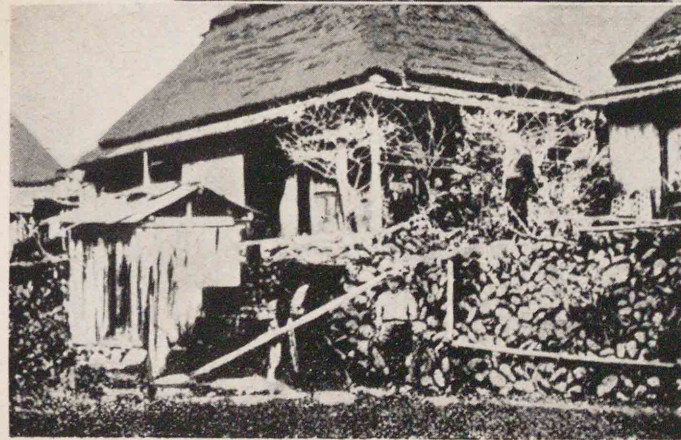
必要がある。又地震に際しては、出入口を開き、室内の火元に注意し、落下す
る瓦や石垣等にも心を注いで、廣場に避難するのが安全である。



阿蘇山 火口丘が五つある
之を阿蘇五岳といひその中
の中岳は今も噴煙してゐる



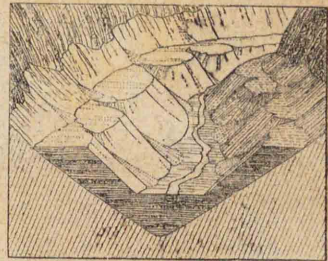
櫻島の熔岩流 大正三年噴
火の際東西の兩方に熔岩を
流出した 圖はその熔岩が
海中へ流入する光景



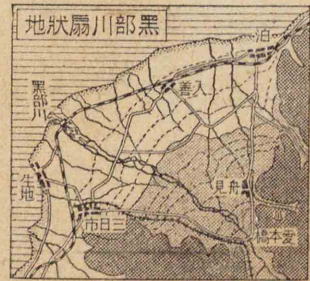
根尾谷斷層の現状、石垣を
施したのは地震當時の斷層
崖で傍の小屋は斷層崖から
流出する泉流を利用した水
車小屋である



和歌山縣北山川にあつる八丁の峽谷



河岸段丘の模倣型圖



黒川下流の扇地

ある。又泉として湧出したものは、飲料灌漑等に使用せられ、尙サハラや濠洲の乾燥地では、泉地や鑿

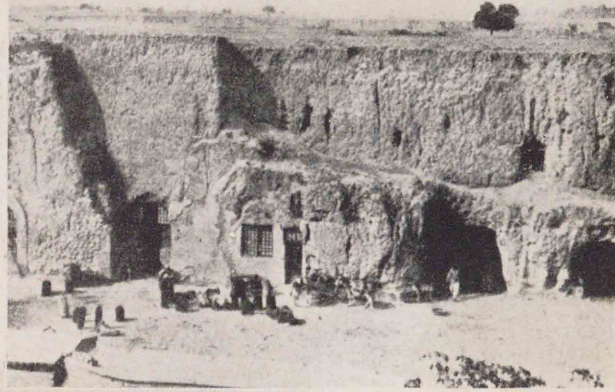
井の源となつて、農牧を發達させる。

處に扇狀地が發達し、河口には運搬物を堆積して、三角洲を作ることがある。海水は波によつて海岸を崩し、斷崖洞窟等の勝景を作り、又その砂礫を運搬して、砂嘴・瀉及び陸繋島を生ずる。

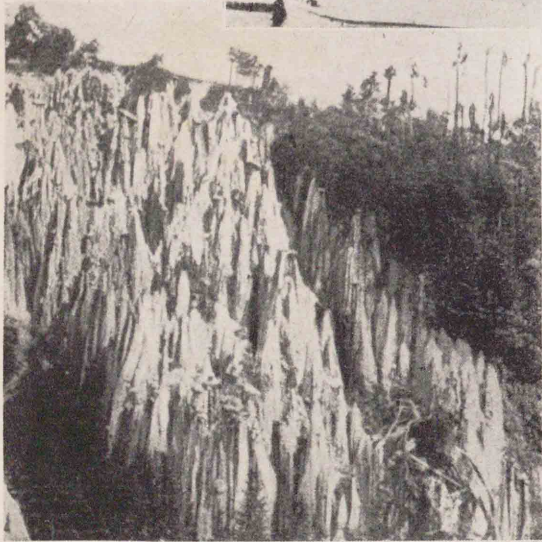


男鹿半島の陸繋島

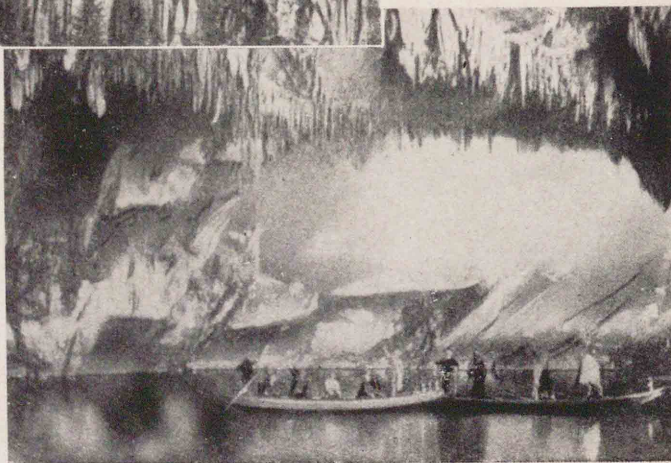
北支那の黄土。黄土層の厚さは處により三十米にも達し、その侵蝕された崖側に穴を穿つて穴居生活を營む者もある。



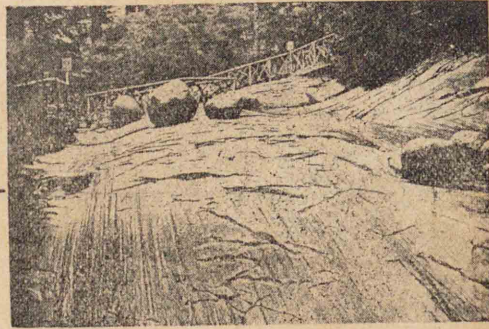
土柱の群立。岩塊の下部だけが雨水の侵蝕を免れて、圖の如き土柱を造る(オーストリアのチロル)。



石灰洞(ベルギー)。洞内には鐘乳石、石筍、石柱等が出來て、美觀を呈し、時には地下湖、地下河等の出來ることもある。

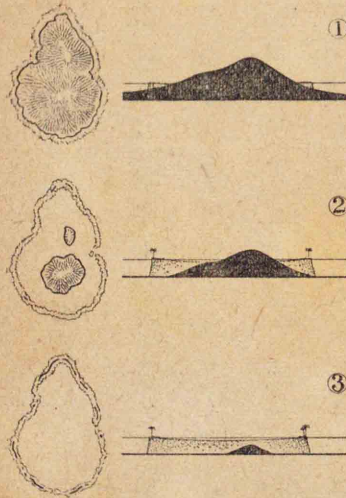


U字谷に海
水が侵入す
れば峡灣を
作る

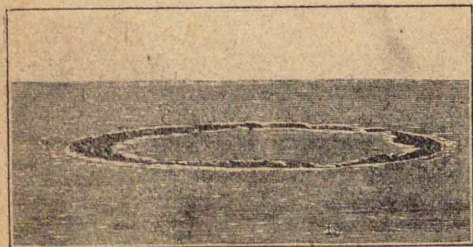


スイスの遺跡
の跡で、ル
ンツェンと
地方の堆石
に石が見え
る。

の大部分は、
多孔蟲の遺骸が、
古く堆積したもの
である。



①の珊瑚の環
②の堡礁
③の環礁
が沈み出
る。沈降
す。沈降
す。沈降
す。



南洋群島の珊瑚環礁

氷雪も地盤を削るが、その顯著なのは氷河で、U字形の深谷を作ることがある。之に水を湛へ、又は氷河の堆石が、水を堰止めて出来た湖水が氷河湖である。

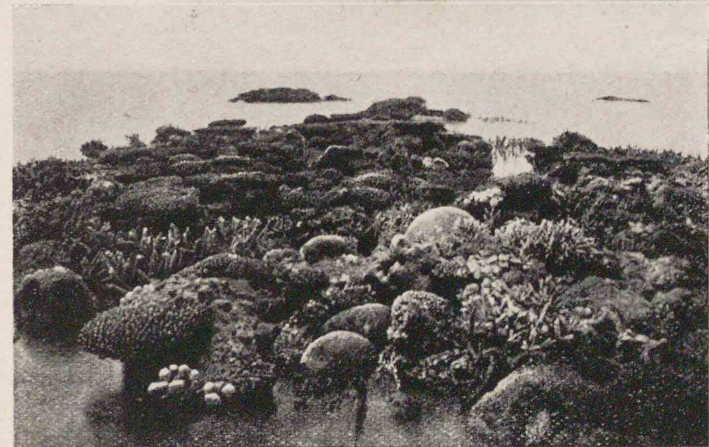
生物の作用 植物は主として土壌を作り、又太古の植物が、石炭となつて地盤をなすこともある。下等動物にも、大きな結果を残すものがある。珊瑚蟲は温暖な浅海に棲みて、**裾礁・堡礁・環礁**等の珊瑚礁を作り、又各地から産する石灰岩



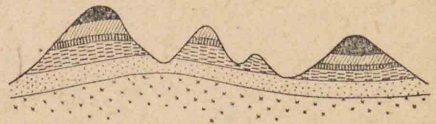
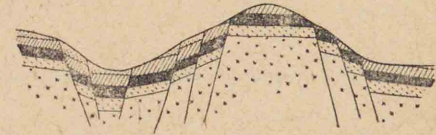
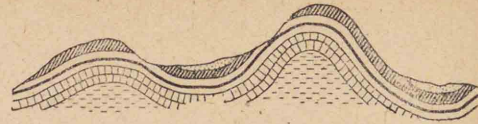
氷河 徐々に山谷を流下し、その移動に當り絶大な力で著しく地盤を削磨する(スイス)



海蝕作用 浪に洗はれる部分は著しく崩壊されて圖のやうな奇景を造る(ニュージーランド)



珊瑚礁 各種の珊瑚蟲によつて造られた礁で色も形も頗る美しい濠洲大陸東岸の堡礁

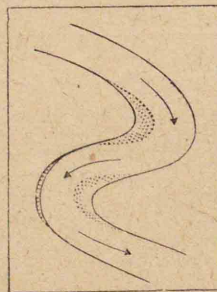


普通に此處を流れる川が山脈と平行するの
 を縦谷といひ、山脈を横切るの
 を横谷といふ。又平野を曲流蛇
 行する河の兩岸には、舊時の河
 道が、三日月湖(河跡湖)となつて
 残ることが多い。



± 侵蝕は褶曲に
 + 隆起は褶曲に
 ⊕ 隆起は褶曲に
 ⊖ 隆起は褶曲に
 ⊙ 隆起は褶曲に

侵蝕等の作用により、地形を變ずる場合が多い。廣い
 低地を平野と呼び、その多くは土砂の堆積、海底の
 隆起等によつて出來たものであるが、土地が侵蝕
 されて出來た準平原もある。平原の特に高いのを
 臺地(高原といひ、四邊に高地を繞らしたものを盆
 地といふ。
 谷は褶曲、斷層又は侵蝕等
 によつて出來たもので、川は

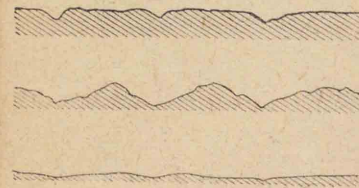


河道屈曲の理

第三節 地形

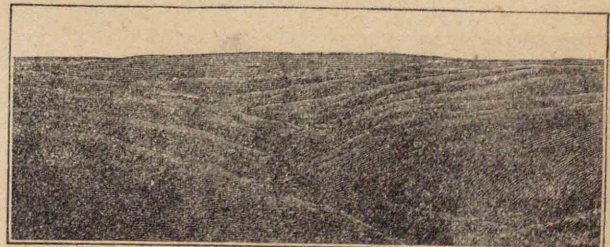
地形の輪廻

土地侵蝕の初期には、武藏野臺
 地の如く、谷の浅い波狀起伏をなしてゐる、之を
 幼年期の地形といふ。この土地が一層隆起すれ
 ば、谷は深く山は峨々として聳え、日本アルプス
 の如き雄大な地貌を呈する、之を壯年期の地形
 といふ。更に侵蝕が加はれば、山頂は次第に削ら

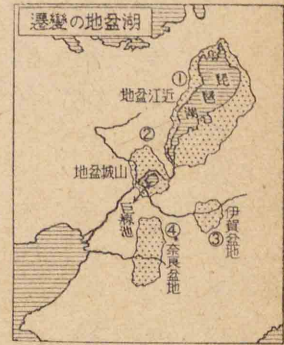


幼年期 壯年期 老年期

れ、阿武隈山地の如き高原地貌と
 なる、之を老年期の地形といふ。斯
 る變化の系統を地形の輪廻といひ、現在の地形は、幾
 回も輪廻を繰返して來た結果である。
 各種の地形 山岳は成因により、褶曲山、斷層山、侵
 蝕山、堆積山等に分れるが、褶曲山、堆積山等も、斷層侵



起伏の極め緩慢な幼年期の地形を示す



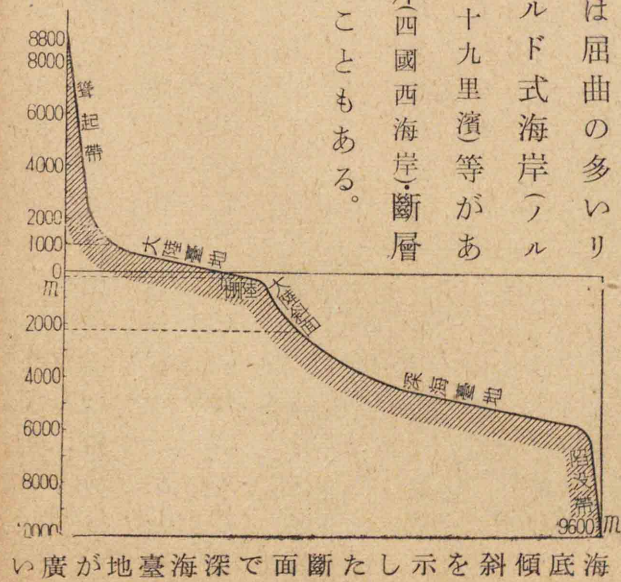
湖は成因上、断層湖、海跡湖、湖火、河口湖、火口原湖等に分れ、その多くは風景がよく、発電、灌漑、交通等の便を與へる。盆地には、湖水が乾涸して出来たものが少くない。

海岸には屈曲の多いリヤス式海岸（志摩半島海岸）、フィヨルド式海岸（ルウエー海岸）や、單調な砂濱海岸（九十九里濱等）がある。又隆起海岸、東京灣岸、沈降海岸、四國西海岸、断層海岸、鹿兒島灣岸等の名を用ひることもある。

第三章 海 洋

第一節 海と海水

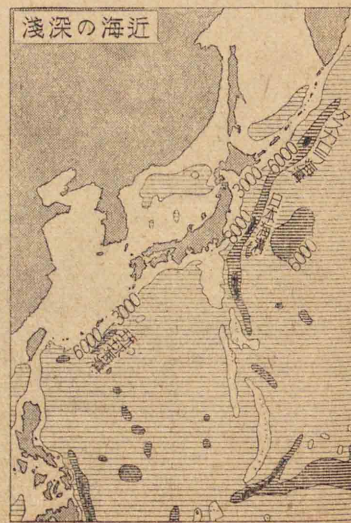
海の形状 海は太平洋、大西洋の三大洋に分れ、更に多くの



海深海面を断たし、傾斜を示す。海底の傾斜が廣い。

日本海溝の北部に八五〇米、南部に九五三米の深所がある。

支海がある。海岸に近い處は、多く陸棚と呼ばれる浅海をなし、深さ約二百米の邊から、急に傾斜を増して、深海に移るのが普通である。深海の中には、海溝、又は海淵等と呼ばれ、特別に深い處がある。



海水の性質 海水は鹽化ナトリウム（食鹽）を始め、種々の鹽類を含むから、その比重は一・〇二六である。

海面の水溫は、緯度によつて異なるが、陸地の如く、烈しい變化はなく、殊に深海は常に寒冷で、到る處殆ど變化がない。

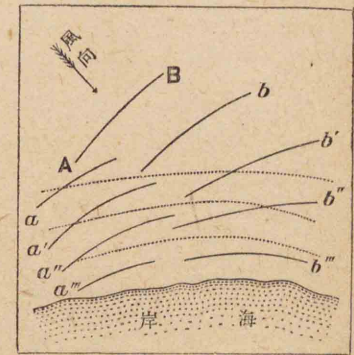
第二節 海水の運動

波浪 波浪は風によつて起る水面の運動で、恰も水が前進するやうに見えるが、實際は運動の形を傳へるのみである。併し浅海で

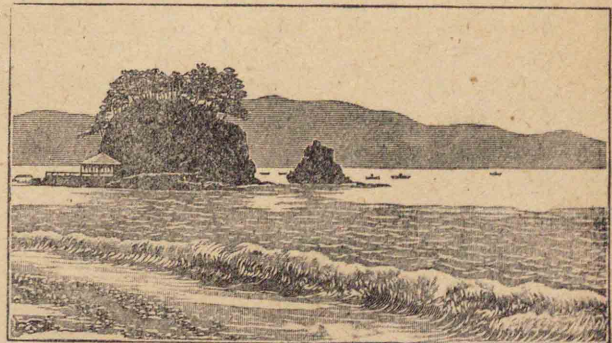
主 要 の 海 流

太平洋	暖流	赤道流	日本海流
太平洋	寒流	千島海流	ペルー海流
大西洋	暖流	赤道流	メキシコ湾流
大西洋	寒流	ラブラドル海流	
印度洋	暖流	マダガスカル海流	
日本近海	暖流	日本海流	對馬海流
日本近海	寒流	千島海流	樺太海流

は、波の下部が運動を妨げられ、波頭は前方に傾いて岸に打上げる、之を磯浪といひ、風

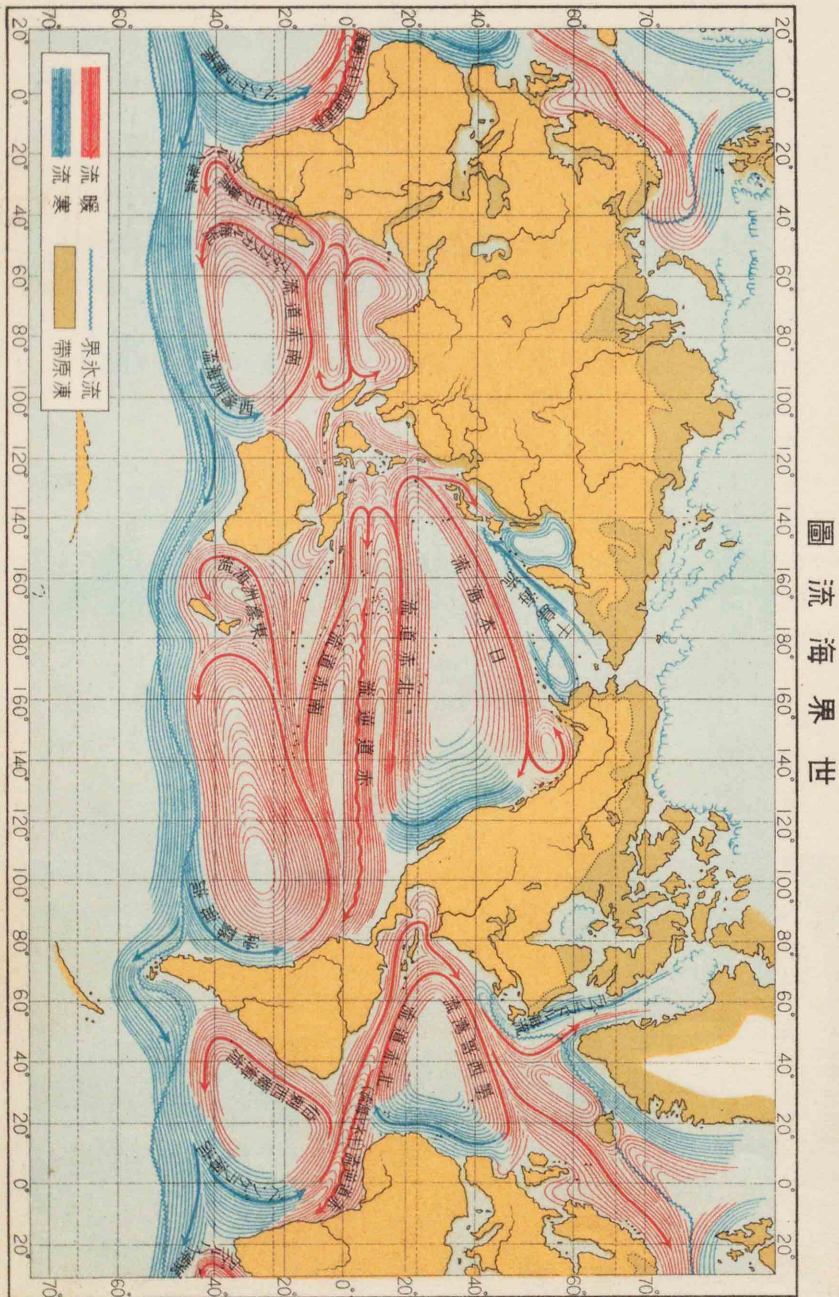


が進行の部Bは波のABと(a'''—b''')浪磯に爲い早す示をるせ寄打てし

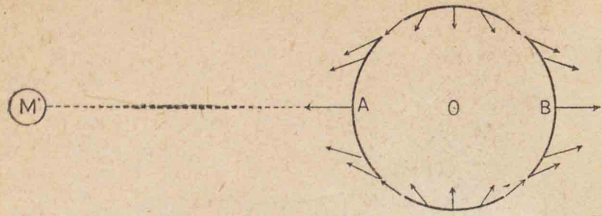


景光の浪磯るけ於に岸海の浦静縣岡静

向の如何によらず、海岸に對して直角に打寄せるものである。火山破裂や地震によつて、不時に起る大浪を津浪といひ、海岸地方に非常な慘害を及ぼすことがある。
海流 海流は主として一定の方向に吹く風によつて起るものであるが、陸地の排列や、

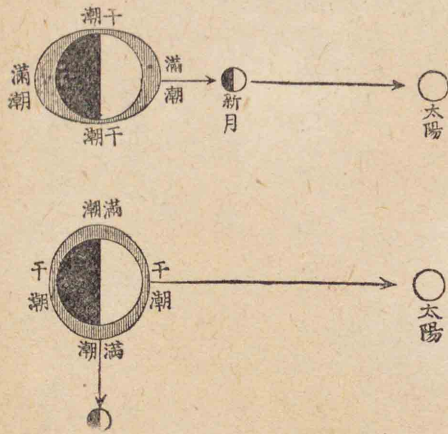


世界海流圖



潮汐干満差
のなるは
有明海の六
米、仁川の十
米である

地球自轉の影響を受けて、流路を變ずる。海流には暖流と寒流との別があり、氣候や生物分布に、著しい影響を及ぼすものである。

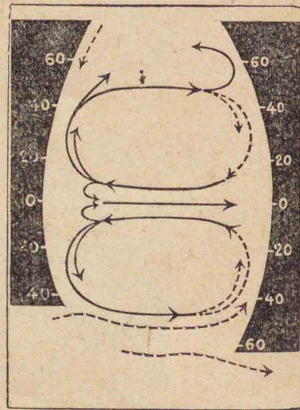


潮汐

海水には、一日に約二回の干満がある、之を潮汐といひ、月と太陽との引力によつて起る。

新月・満月の時は、月と太陽の潮汐が重なるから、干満の差が著しく、之を大潮といひ、上弦下弦の頃は、兩者の力が互に減殺して、干満共に著しくない、之を小潮といふ。

狭い海峡では、潮汐の干満に際し、激しい流れを起すことがある、之を潮流といふ。又喇叭状に開いた



太平洋の海流(實線) 暖流は線、寒流は点線

海嘯は錢塘江・アマゾン河等に著しい

大氣は主に窒素と酸素から成り、多少の水蒸氣、炭酸瓦斯等を含んでゐる

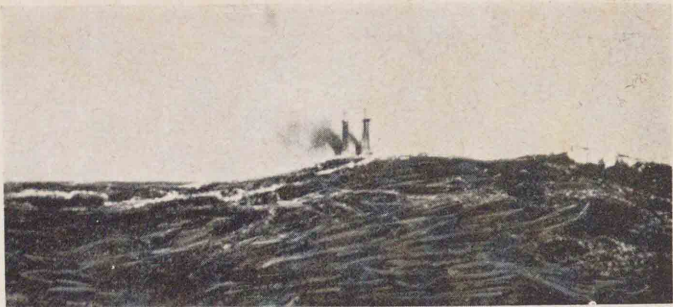
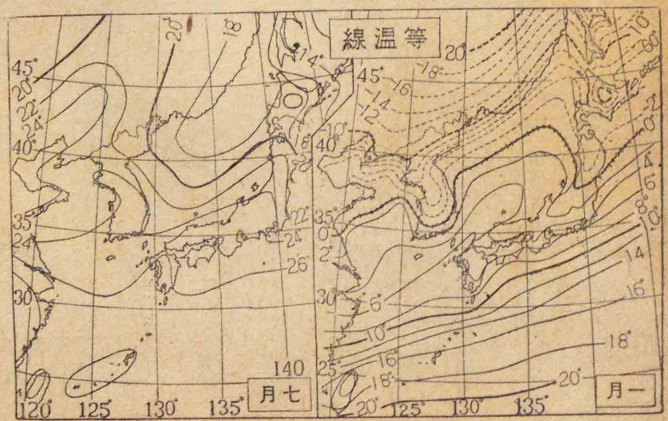
た河口では満ち来る潮水が河水と激し、海嘯の現象を起すことがある。

第四章 氣 候

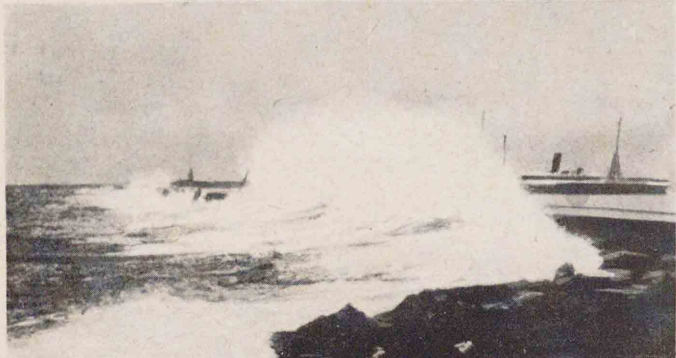
第一節 大 氣

大氣の性質 海陸を包んで、地球の最外部をなすものは大氣である。大氣層の厚さは、約四百粍といはれるが、風雨雲等の如き天氣現象の起るのは、地上から僅に十數粍の間である。

氣温は主として、太陽熱に温められた水陸の表面から受けるので、緯度又は海拔により異なつてゐるが、風の方向・山脈の位置・海流の關係等によつても著しく違ひ、殊に水陸分布は、氣温に及ぼす影響が著しく、海洋性氣候・大陸性氣候の別



大洋の浪 大洋に於ける光景で汽船と比べて波の大きさが想像される

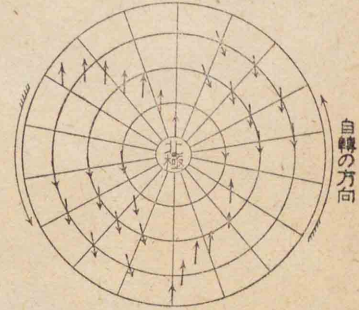
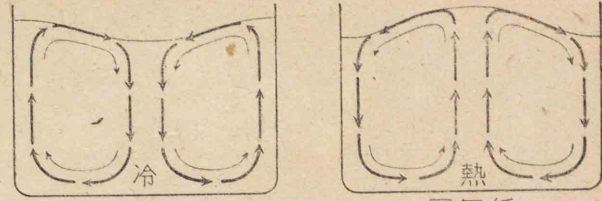
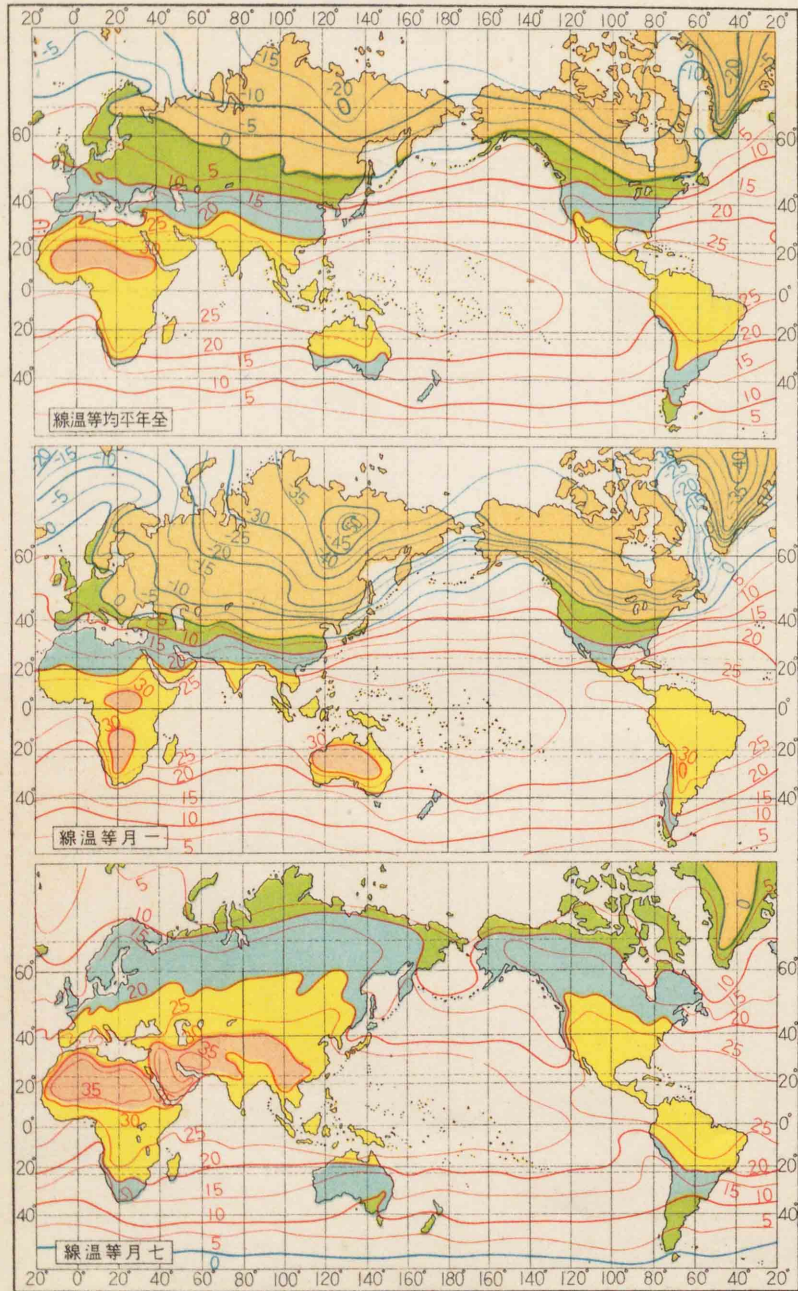


コロンの海岸 季節風期には山の如き大浪が打寄せ人工築港で之を防いでゐる



嚴島は潮汐 潮汐の干満は海を奇異に感ずるが一は満潮時で廻廊が全く水上に浮び一は干潮時で同じ場所に神鹿が遊んでゐる

圖線温等界世



圖たし示をるす偏右が風

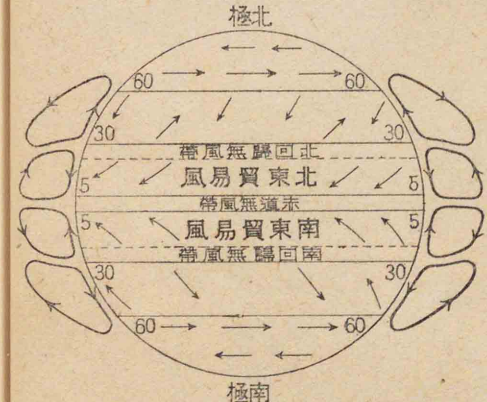
る面を不連続面といふ。不連続面が地面に接する線を不連続線といひ、天氣の急變し易い處である。

大氣の流動 風は氣壓の平均を得んが爲に起る大氣の流動で、その強弱方向等に就き風則がある。

浮輕が氣大とるれらせ熱く強が部一
却冷が部一 じ生を壓氣低てし昇上
るず生を壓氣高てし縮壓が氣大とるす

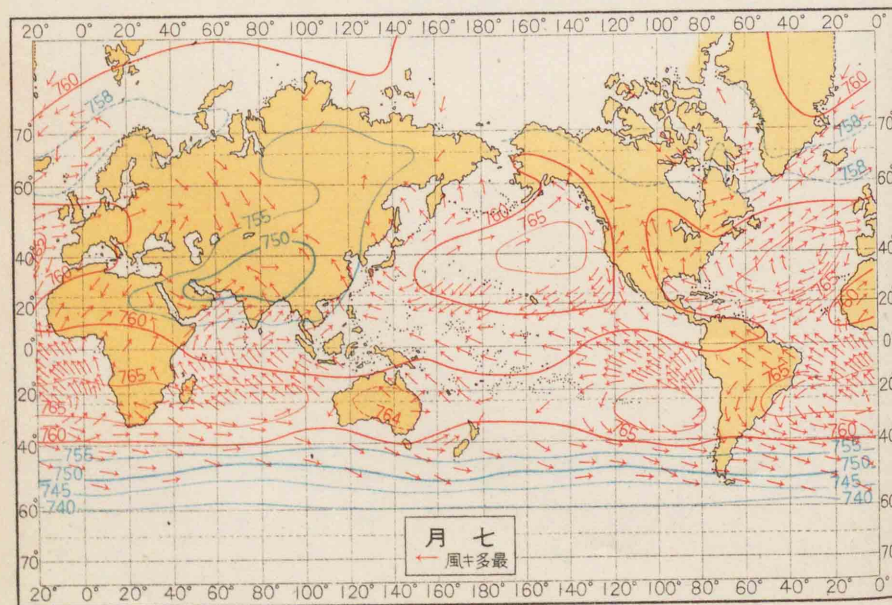
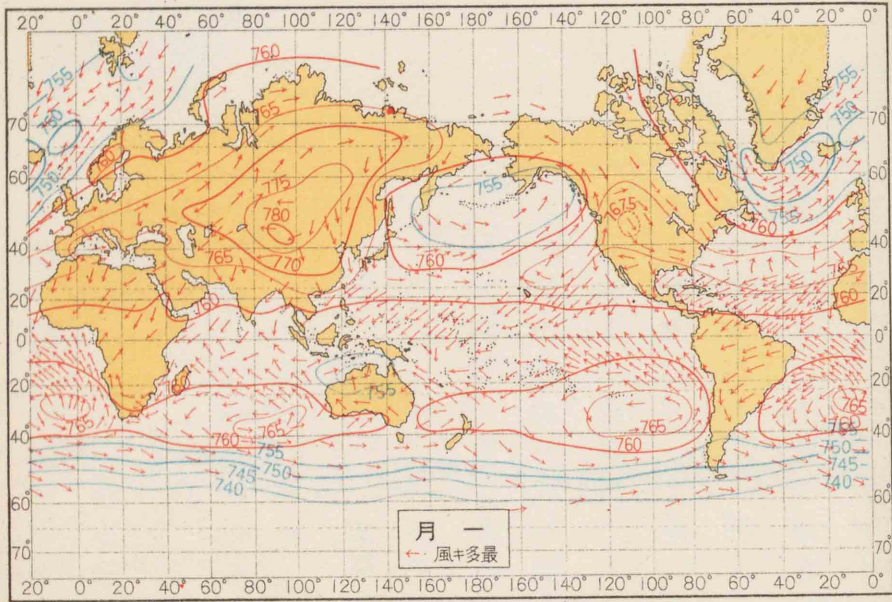
逆比例する。氣流は地球自轉の影響により、北半球では右に偏り、南半球では左に偏る。

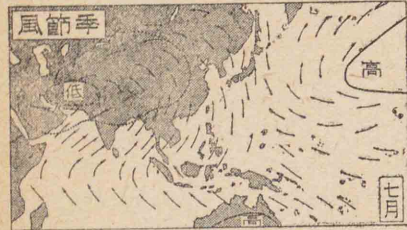
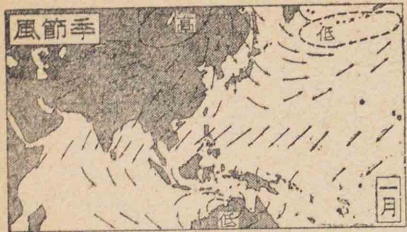
風には、一定して吹くもの、時を定め吹くもの、不時に起るもの等がある。



圖たし示を環循の氣大

圖線壓等界世





示を帶風節季のヤジア

は早いから、海岸地方では、晝は海から陸に、夜は陸から海に向ふ風が吹く、之を海軟風、陸軟風といふ。之と同理で、大陸の内部は、夏は低氣壓の中心、冬は高氣壓の中心となるから、夏は海から陸に、冬は陸から海に向つて風が吹く、之を季節風といひ、印度

一定の風 赤道地方は氣温が高く、大氣が輕浮上昇して氣壓を減ずるから、此處に赤道無風帯を生ずる。上昇した大氣は南北に流れ、次第に冷えて下降するから、緯度三十度邊は、その大氣の堆積により氣壓が高く、大氣は常に靜穩で、此處に回歸無風帯を生ずる。一部は此處から極に向つて吹くが、大部分は赤道に向ふ下層流となる。此等の氣流は常に變らないから、赤道の南北、緯度三十度内の海上では、四時一定の風が赤道に向つて吹いてゐる。之を貿易風と呼び、又反對に吹く上層流を反對貿易風といふ。

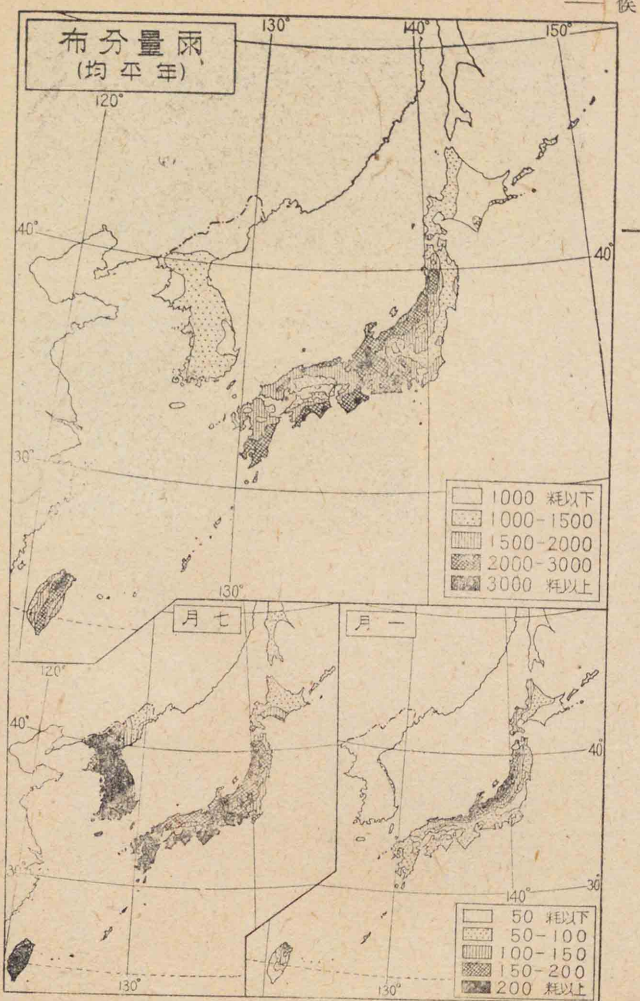
週期の風 陸地は熱の吸收も放散も、水面よりは早いから、海岸地方では、晝は海から陸に、夜は陸から海に向ふ風が吹く、之を海軟風、陸軟風といふ。之と同理で、大陸の内部は、夏は低氣壓の中心、冬は高氣壓の中心となるから、夏は海から陸に、冬は陸から海に向つて風が吹く、之を季節風といひ、印度

である。我が國は雨が多く、その大部は梅雨・颱風及び季節風に伴ふものである。

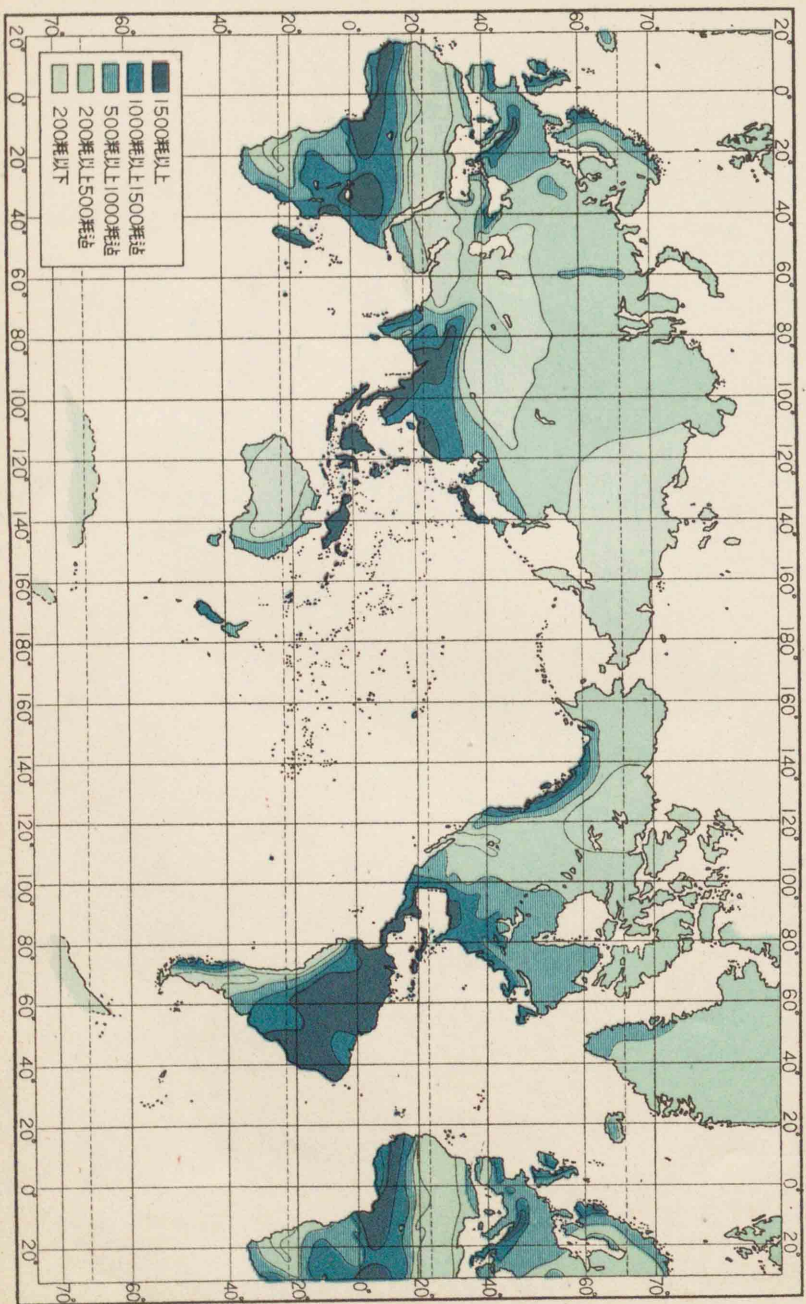
第三節 天氣と氣候

天氣 氣溫・氣壓・風

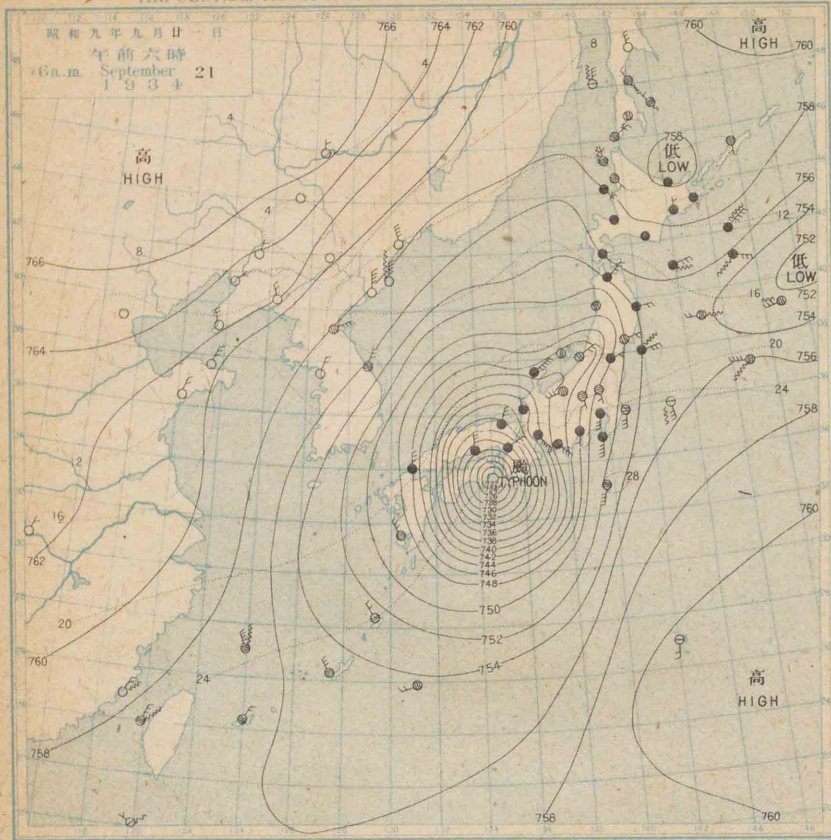
雨・晴・曇等、その時に於ける氣界の状態を天氣といふ。天氣は時々刻々に變るが、それには必然の理由があるから、之を考へて、將來の天氣を豫測することが出来る。我が中央氣象臺は、各地方の報



世界雨量分布圖



天氣圖
WEATHER CHART
THE CENTRAL METEOROLOGICAL OBSERVATORY OF JAPAN, TOKYO.



大氣圖第二六四號

全國概報

第一區	晴
第二區	晴
第三區	晴
第四區	晴
第五區	晴
第六區	晴
第七區	晴
第八區	晴
第九區	晴
第十區	晴

午前六時天氣概況

颶風可成強烈之中心。七〇就極度之今朝六時北東海
 渡德島等在北東之東北東間。向之進行中附近大暴
 風雨中之大阪名古屋等之次。相繼暴風雨。リマコソ
 レリ以東。然之雨降。相繼風力。強。風行。度。候
 下九州方面。大風。次第。恢復。中。思。七。本。即。西
 部。通。信。絶。之。狀。況。不。明。之。入。風。能。此。類。子。進。ハ
 打。前。長。群。島。新。潟。附。近。通。過。北。東。一。拔。ハ。極。子。ス
 各地。共。警。戒。之。云。シ。又。樺。太。北。部。滿。洲。晴。ハ。勝。上。朝
 鮮。之。晴。ハ。度。リ。程。度。ハ。見。ハ。ス。高。氣。壓。ハ。七。六。大。北。東
 滿。洲。北。部。ハ。又。前。日。分。進。報。告。乃。進。威。烈。東。各。地。於。七
 北。雨。量。於。今朝六時迄。二十四時間。五。十。釐。以上。之。進。ハ。街。前
 沿。津。輪。島。等。之。七。六。今朝六時。溫度。年。比。以。前。本。日。度。大
 阪。五。度。東京。八。度。新潟。八。度。福岡。八。度。札幌。二。度。何
 七。高。大。湖。北。湖。北。湖。大。連。大。連。度。何。七。低。七。七。度。リ。ス。

暴風警報

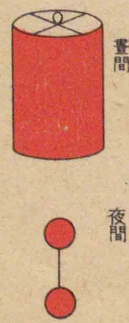
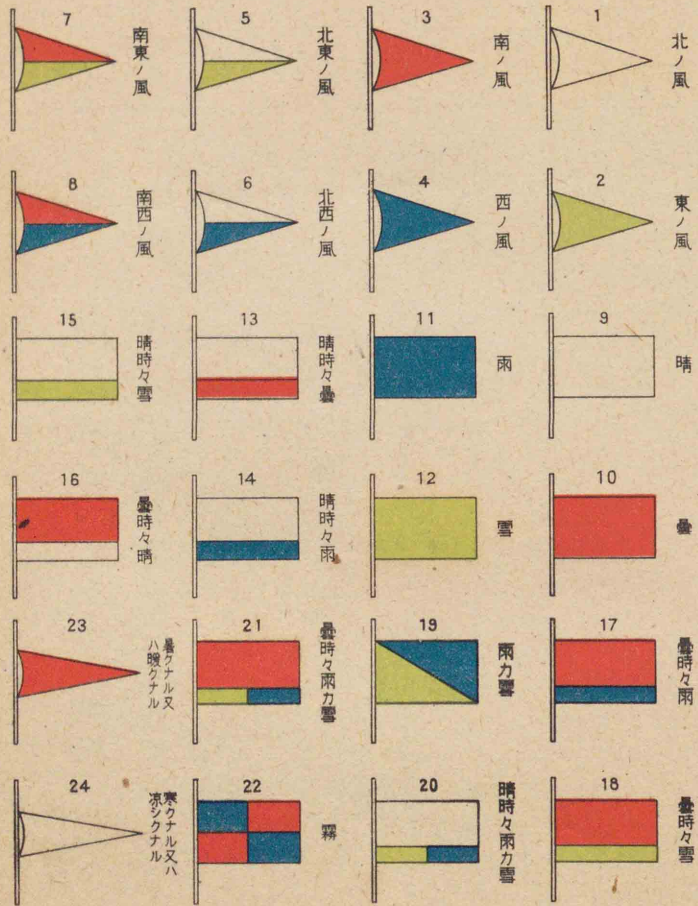
第一區 風雨強。二十日午後八時十分警戒入
 第二區 風雨強。二十日午後四時十分警戒入
 第三區 風雨強。二十日午後八時十分警戒入
 第四區 風雨強。二十日午後八時十分警戒入
 第五區 風雨強。二十日午後八時十分警戒入
 第六區 風雨強。二十日午後八時十分警戒入
 第七區 風雨強。二十日午後八時十分警戒入
 第八區 風雨強。二十日午後八時十分警戒入
 第九區 風雨強。二十日午後八時十分警戒入
 第十區 風雨強。二十日午後八時十分警戒入

東京概報

今朝雨。風。天氣。次第。恢復。中。リ
 明日雨。風。天氣。七。リ

等壓線 Isobary line	○ 快晴 Clear	● 雨 Rain	⚡ 雷雨 Thunder storm	○ 黃沙 Yellow dust
等溫線 Isothermal line	○ 晴 Fair	⊖ 雪 Snow	⊖ 霧 Fog	○ 曇天 Obse storm
不連續線 Line of discontinuity	⊖ 薄雲 Cloudy	⚡ 雷雨及 lightning	⊖ 霧霰 Mist	○ 吹雪 Snow drift
	⊖ 雲 Overcast			

天候豫報晝間信號標



暴風警報信號標

晝間

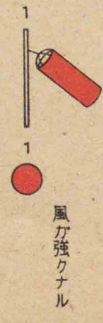
夜間



風雪が強くナル



風雨が強くナル



風が強くナル

氣象特報信號標

晝間

夜間

氣候には熱
帶性、溫帶性、
寒帶性又は
大陸性、海洋
性等の名が
ある

告を集めて天・氣・圖を作り、將來の天氣を考察して、全・般・天・氣・豫・報を出し、暴風雨等の虞ある時は、氣・象・特・報又は暴風警報を出して、その地方を警戒する。


氣候 天氣は定りなく變化するが、永年に互つて觀測すると、或時期を通じた天氣の平均状態を知ることが出来る、之を氣候といふ。氣候は緯度の高低によつて異なるを原則とするが、地形や水陸分布等の關係に支配されることも甚だ多い。

第五章 住 民

第一節 人種と民族

人種 世界の住民は、體格容貌性情を始め、風俗習慣等が、處により著しく違つてゐる。それは永く住地を別にし、異なつた自然的環境の内に、違つた生活様式を経て來た結果である。通常身體骨格容貌・毛髮・皮膚等言語風習等の異同を究め、その似たものを集めて、世

種人ーレマ (民住嶋島岸海)	種人カリメア (種人色銅)	種人カリファア (種人色黒)
皮膚が褐色。額が突出して鼻が低い。髪は黒色に近く縮毛。鬚髯は少い。	皮膚が銅色。額骨が突出して鼻は中位。髪は黒く直く又は波状。鬚髯は少い。	皮膚が黒色。額が扁平で鼻が低い。顎が出ると唇が厚い。髪は黒く概ね縮毛。鬚髯は少い。
		
オーストラリア族 パプア族 ポリネシア族 メラネシア族 マレー族 ドラビダ族 ホバ族	エスキモー族 インヂャン族 パタゴニヤ族 フェゴ族	ネグロ族 小ネグロ族 准ネグロ族 ブッシュメン ホットエントット
大洋洲	北アメリカ 南アメリカ	アフリカ中部以南

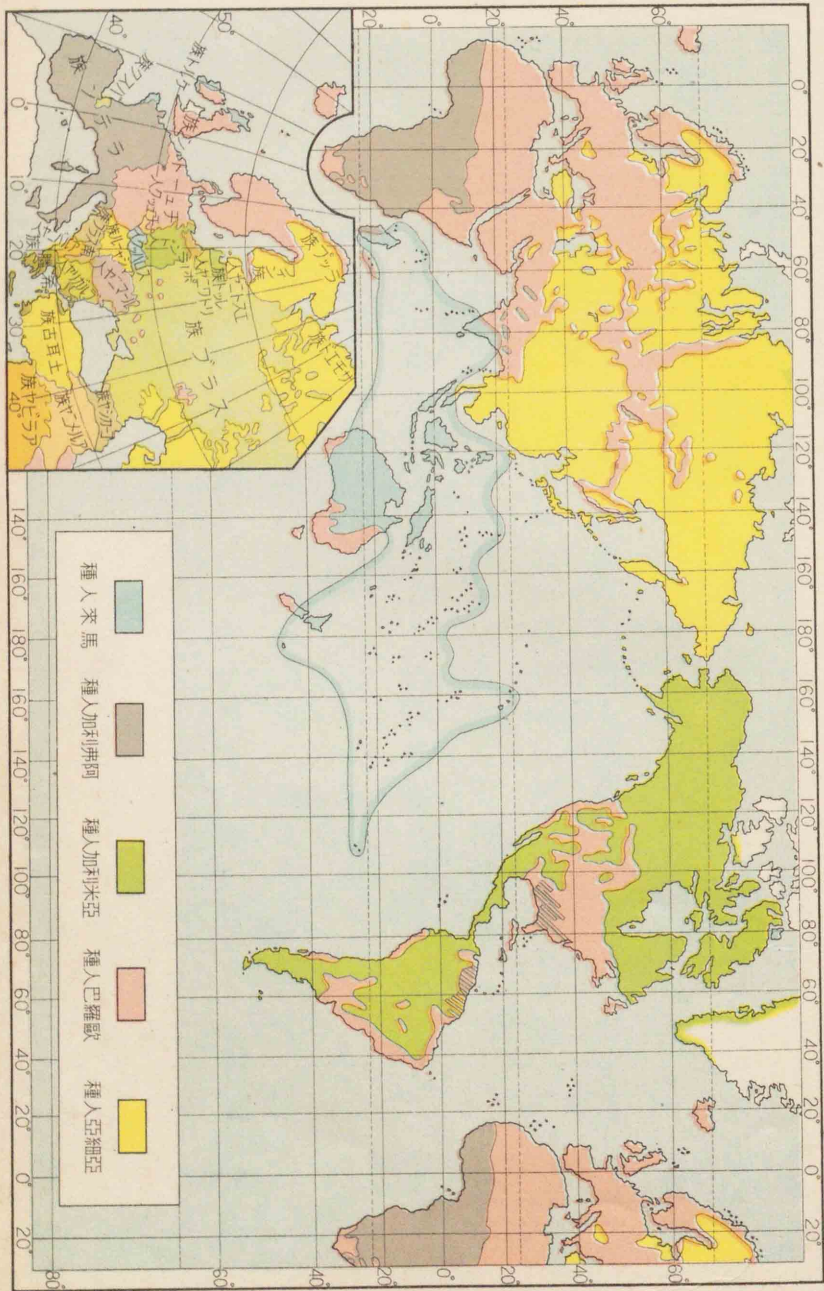
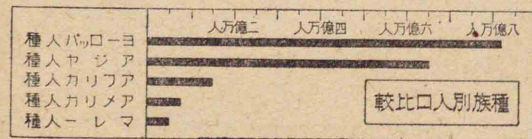
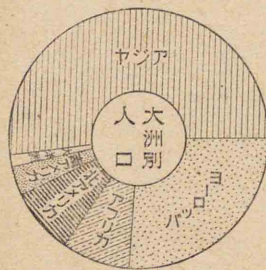
種人バローヨ (種人皙白)	種人ヤジア (種人色黄)	人種
皮膚が白色。額が広く鼻が低い。髪は概ね黒色で波状。鬚髯が多い。	皮膚が黄色。額骨が突出して鼻は中位。髪は黒く概ね直鬚髯が少い。	特徴
		徴
南部 セム派 ハム派	南部 漢族 印度支那族	主要民族及び住地
北部 コーカシヤ派 アールリヤ派	北部 日本族 蒙古族 アイヌ族 トルコ族 フィン族 ラップ族 マジャール族 苗族 藏族 西蔵族	アジヤ ヨーロッパ
コーカシヤ族 チュートン族 ラテブ族 スラブ族 ギリシヤ族 ケルト族 アールニヤ族 イラニヤ族 印度族 ベブル族 エジプト族 ソマリア族 エチオピア族 アラビヤ族 ユダヤ族	アジヤ ヨーロッパ	アジヤ ヨーロッパ

古い歴史のある地方は人口が密で新開地は粗である又商工業地は密で農牧地は粗である

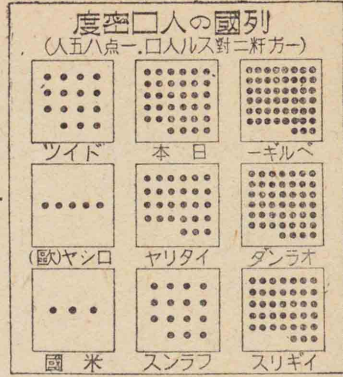
界の人類をアジヤ・ヨーロッパ・アフリカ・アメリカ・マレー(海岸島嶼住)の五人種に大別し、各人種は、更に多くの民族に分れる。
民族 民族は地形・氣候等の自然的環境と、歴史文化等の人文的
 環境とによつて、特有の風俗・習慣を持つてゐる、之を民族性といふ。
 民族性は多く國粹的で、保守の傾向がある。

大和民族 我が國は大和民族を主腦とし、朝鮮族、漢族等を包含する。大和民族は我が國の創建者で、この國土に起源し、發達したもので、忠君愛國の念に厚く、世界無比の國家を樹て、民族意識が極めて強い。この他、臺灣には少數の蕃人(マレー族)が住み、北部にはアイヌ・オロク・ニクブン等の土人もある。

人口 世界の人類は、約二十一億と稱せられ、産業の發達せる地方及び歴史の古い地方に多く住んでゐる。東亞・印度・歐洲の中部以西・米國東部等は、人口の密集



世界人種分布圖

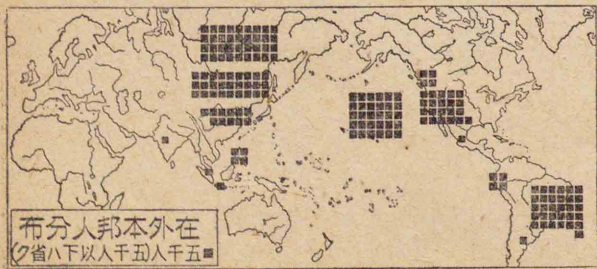


地域で、總人口の七割以上が此處に住み、之に反し、熱帶森林地、山地、沙漠、極地等は極めて稀薄である。又農牧地方には、人口が普遍的に分布し、商工地方では、一箇處に密集してゐる。人口の密な地方は、生存競争が激しく、優勝劣敗が繰返され、人心が最も緊張してゐる。

一國の人口増加には、死亡よりも出産の多い自然の増加と、往住者よりも來住者の多い社會的増加とあるが、世界の全體から見ると、自然的増加の一要素のみである。

移植民

一國の人口が過剩となれば、生活の安易を國外に求めるやうになる。我が國は土地が狭く、人口が多いから、移民を奨勵し、今は海外に在留する邦人の數は二百萬を超え、その中内地人は約百二十萬である。内地人の最も多く移住してゐる

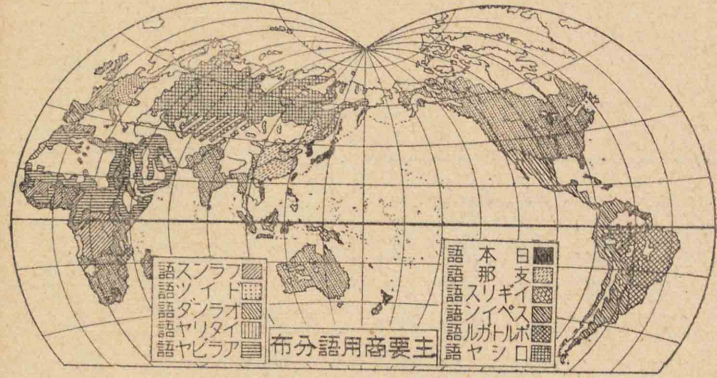


のは、滿洲國・支那・ブラジル・ハワイ・米國等で、何れも十萬を超え、フィリピン・カナダ・ベルギー・アルゼンチン及び蘭印地方等が之に次ぐ。

第二節 言語と信仰

言語 言語は思想の發表に缺くべからざるものである。現今行はれてゐる言語は極めて多いが、中でも英語は、英・米の兩國と、その植民地に行はれる外、世界の商業語として勢力がある。フランス語は社交語として、ドイツ語は學術語として、共に國際的に用ひられる。又スペイン語は、主としてラテンアメリカの諸國に行はれ、將來の商業語として、注目されてゐる。

我が國語は、教育の發達と共に、全國に普及統一されて、意志の疏通がよく行はれ、國民の結合が極めて強固である。近年國勢の發展と共に、次第に大陸に普及し、極

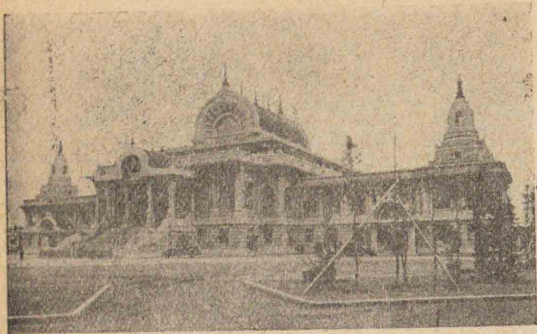
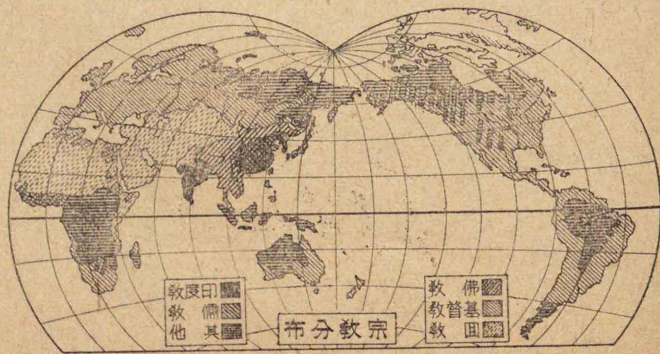


支那語・印度語も語る者は多いが、實際的の言語ではない

東語として重視されるに至つた。

宗教

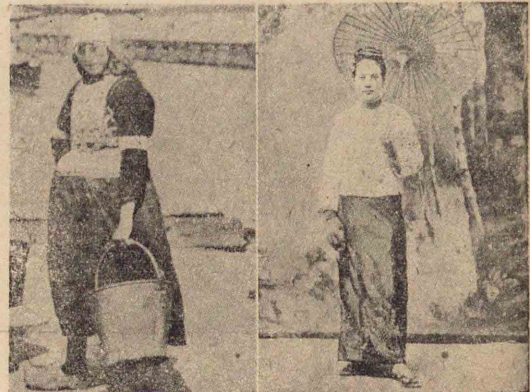
宗教心は、文野を問はず認められるが、世界の大宗教といはれるのは、佛教・キリスト教・回教・印度教である。佛教は東亞の諸國に行はれ、キリスト教は歐米の諸國に



印度・東南ヨロップ及び北アフリカ等の地方に行はれ、印度教は印度に盛である。その他ユダヤ人の住地にはユダヤ教、西藏蒙古では喇嘛教（佛教の一派）が行はれる。此等は何れも、永い歴史があつて民族精神と融和し、その關係は容易に動かし難く、言語と共に、國民の統治上大切なものである。國家により、或宗教を國教と定めてゐるものもあるが、我



裸體で原始的な生活の土人



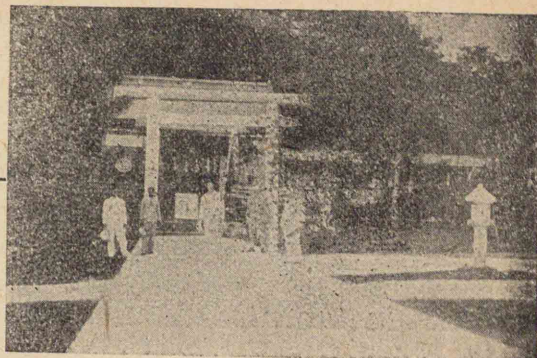
日傘を履き木履を履く熱帯地は湿度の低い地、マルビの地、マラオの地、大土人

せ採つて、食物の材料が多く、且各種の嗜好料をも加へて賞用し、味覺の複雑なのが常である。
家屋 熱帯地方の住民には、防衛をも兼ねて、樹上・水上等に屋を構へる者もあ



土人アプパの樹上生活

化せられて、衣服の形も、原料の種類も様々となり、民族の特性を、服装に表現してゐる場合が少くない。
食物 熱帯地方では、専ら食物を植物に仰ぎ、寒地では食糧も動物性に偏するが、温帯の文明人は、この兩者を併



南方の神社、日本に於ける神社の例

が國は憲法により、信仰の自由を許されてゐる。
神社 我が國民は、敬神尊祖の念が厚く、皇室の御先祖を初め、忠臣賢哲を神として祀る美風があるの
で、戸々に神棚を設けた處も多く、寒村僻邑に至るもの
莊嚴な神社を見ない處はなく、村民一致して祭祀を行
ひ、郷土統合の中心となつてゐる。その國家的中心とな
つてゐるのは伊勢神宮である。

第三節 人類の生活

衣服 衣服は元來、防寒を目的として作られたものであるから、熱帯地方の野蠻人には、今も裸體の者は多いが、文化の進むに従つて、次第に裝飾を兼ねるやうになる。併し環境によつて著しく違ひ、暖地では綿・麻等の織物を用ひ、寒地では毛皮・羊毛等の厚い衣服が必要である。温帯地方の住民は、その文化の向上に伴ひ、多分に裝飾



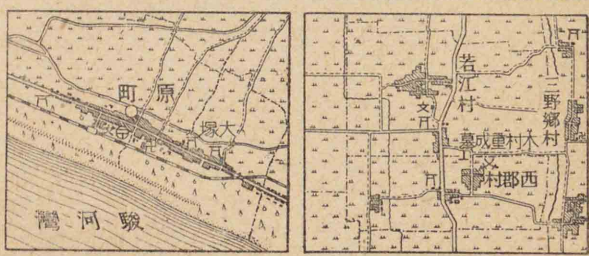
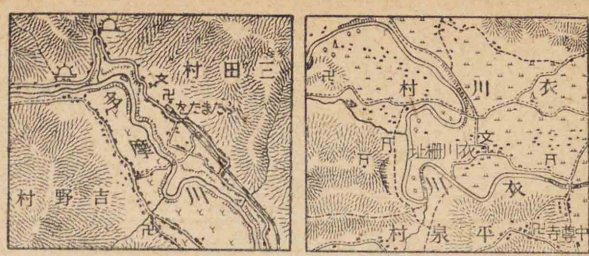
エスキモ族の冬の居住は氷塊で作る

り、遊牧民の如く、轉移の必要上、簡単な天幕生活を営むのもあり、寒地では丸太小屋を構へ、又は氷屋に住する者もある。その住居の形式は、地理的環境に應じて種々あるが、温帯の文明國人は、木材、石材及び人造石材等を使用して、宏壯な家を作り、或は大廈高樓を建築し、摩天街を形成することがある。

第四節 人類の住所

聚落 人類は共同生活を営み、概ね集團をなして聚落を作る。狩獵・遊牧の時代には、住所は常に轉々として定まらないが、農業を営むに至れば、定着して村落を作り、人口が稠密となつて産業が始めれば、物資交換の中心町が興り、産業の發達に伴つて、次第に大なる都市に發展するやうになる。

聚落の形態 聚落の形態は、發達の原因及び地形等によつて違



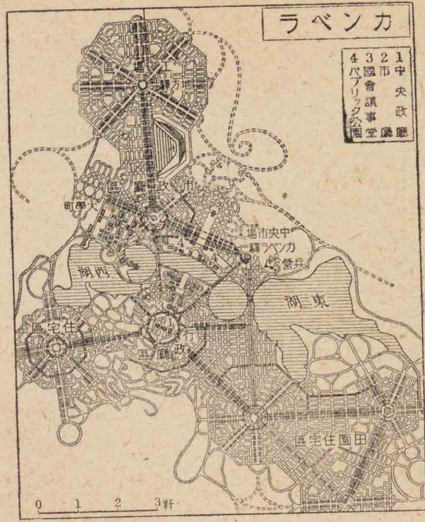
右 **散村** ① 民家が散在してゐる散村、密集してゐる集村、道路に沿うて列をなす街村、斷續してゐる鏈村、傾斜地に階段狀をなしてゐる層村等がある。

都市の種類 都市はその發生の原因及び發展の事情等によつて、種々に分れるが、政治都市、國防都市、學術都市、生産都市、交通都市、歴史都市、温泉都市及び靜養都市等がその主なもので、多く政治・軍事・教育・産業等の中心地に勃興するを常とし、その他、古跡・勝地の所

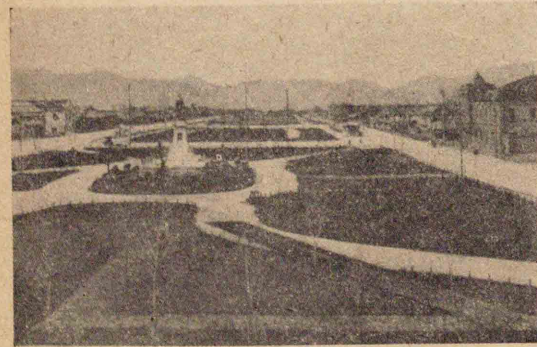
- 1 ワシントン・カンベラ
- 2 横須賀・ポーツマス
- 3 ケンブリッジ
- 4 大阪・エッセン
- 5 下關・パナマ
- 6 京都・ロンドン
- 7 別府・カルルスバード
- 8 輕井澤・ニース



層村をなす伊香保



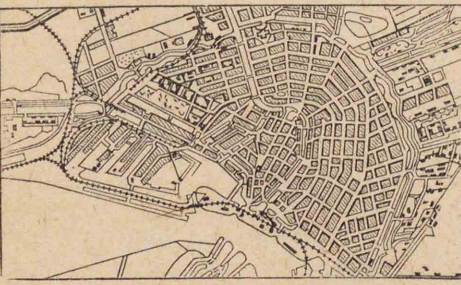
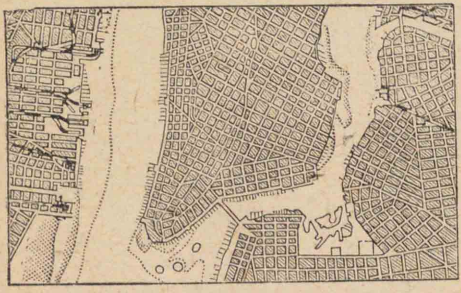
定め、交通の便利、住居の安寧、健康の保持は勿論、都市の美観をも圖る。都市の美観を保つ爲には、建築物の高さ、材料等を制限し、道路の幅を決定し、街路樹を植ゑ、十字路に小公園を設け、公園式街路を建設する等、種々の設備を施す。大都市内の道路は、斯くして次第に緑樹化されてゐる。



路道式園公るた然整で部一の市幌札

ステルダム及び此等の組合せ(カンベラ)による整然たるものがある。我が北海道樺太等の新開地には、格子状の市街が多い。

都市計畫 都市は發達につれて、保健上に種々な缺陷を生ずるから、その害を除き、福利を増進する爲に都市計畫を行ふ。都市計畫には、商業地域、工業地域、住宅地域等の區別を



ムダルテスマア(下) グーヨーユニ(上)

達に委ねてあつたので、概ね不規則であるが、近年建設されるものは、都市計畫に基いて豫め設計を施し、格子状(京都・ニューヨーク)放射状(大連・パリ)同心圓状(アム

在地に遊覽町、社寺の所在地に門前町、航路の要地に港市の發達することがある。港市には船舶の碇泊、貨物の積卸等に便する特別の装置を要する。

都市の形態 都市の形態を決定するものは道路である。昔の都市は、多く自然の發



ぶ並が店食飲・店産土で町前門の荷稻川豊

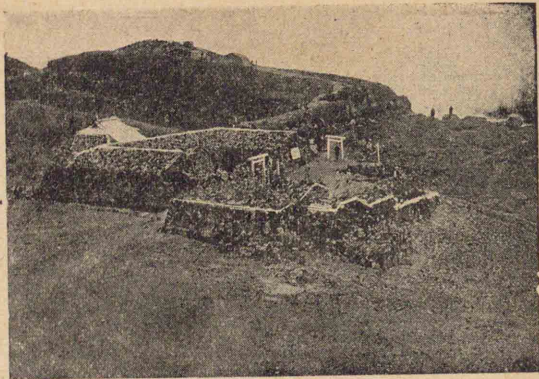
カーライル曰く「蛇や牛や狸を拜するものは蛇類や牛や狸に類する。一國民の道徳知識はその崇拝する理想的表示の一である」と

第五節 自然と人生

太陽と人生 太陽が人生に最も深い關係を有するのは、その光と熱とである。この光熱は、一方には人類の最大強敵といはれる細菌を死滅せしめ、他方にはその強弱によつて、地表に熱帯・温帯・寒帯等を生じて、相異なる獨特の文化景觀を形成し、又晝夜の如き日光の變化に、人類生活の大部分を支配する。

太陽は、古來造化無限の勢力者として崇拜せられ、殊に我が日本では、國旗を日の丸とし、皇祖を日の神と崇め、皇系を天日嗣と稱へ奉り、我が民族が持つ太陽觀が、崇高なる國民的理想と一致することを示してゐる。

地形と人生 山脈は交通の障壁となり、文化の境界をなす場合が多く、三國山脈が關東型と北越型とを分けるが如きは、この例である。又富士・御岳等の高山は、莊嚴畏敬の感を起さしめ、社寺を建て



富士山の頂上にあつた淺間神社の奥宮

て之を神格視し、且近年青年婦女子が、日本アルプスを始め、多くの高山に登山する者の多いのは、崇高なる大

自然の靈氣に觸れんが爲である。山地の住民は、その土に安住して自給自足し、郷黨は苦樂を共にするから、獨立團結の念が強く、且主長を尊ぶ。之が山國に激烈な愛國心の興る所以である。

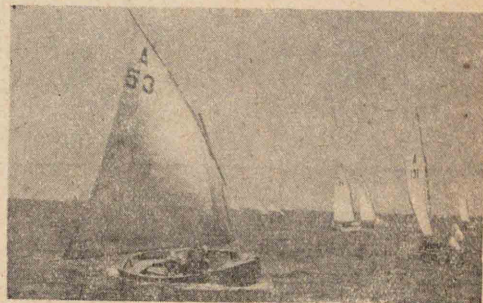
平野は生産が豊で産業が興り、交通が至便で都會も發達する。従つて生存競争の最も激しい處で、住民は自ら競争的・實利的となり、伶俐で社

交性に富むと共に、浮薄に傾き易い。

海洋と人生 未開の時代に於いては、海は交通上の大障害であつたが、今は最も經濟的な世界の公道で、海外と交通し、貿易し、文化の輸入に便する。且海洋は、氣候を調節し、産物を



山地の住民は山地によつて他と隔絶され、海の住民は海によつて他と隔離され、その性質に相違する點がある。



輕舟にヨリ心膽を練る海國青年

と親子の情愛を生ずる。これ島國民に勤王心が深く、忠君愛國の思想の強い所以である。

氣候と人生

人類の活動に及ぼす地理的條件の中で、最も重要なのは氣候である。熱帶地方は氣溫が高く、天産に富み、生命を野生の果實・草根に托し、且衣服の必要もなく、灼熱せる炎威は、筋肉を緩め、勞せずして心身の疲勞を感じずるから、住民は安逸に流れ易い。寒



寒地住民の生活

帶地方は寒氣が酷しく、生物は少く、萬物寂寥として、住民は常に衣食を求むるに汲々とし、生活に餘裕がない。獨り、熱帶地方は、氣候が溫和で、生物の繁殖はその度に適するが、勤めなければ之を得難く、日常の生活は、決して安逸を許さない。且四季の變化は、人心を適當に刺戟して活氣を與へ、智識を増

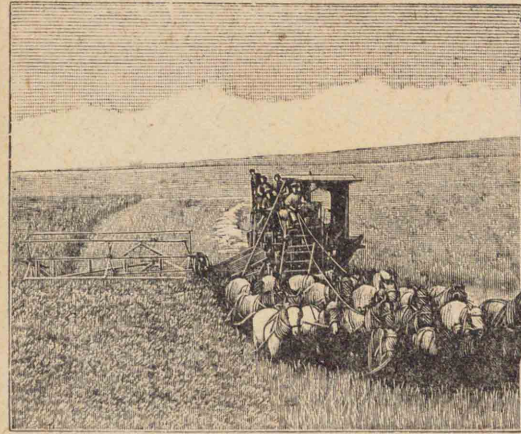
進して益、開明の度を加へ、文化日に月に發達する。今日世界の文明國が、何れも溫帶性氣候にあるのは、氣候と文明との間に、密接不離な關係がある爲である。

第六節 文化

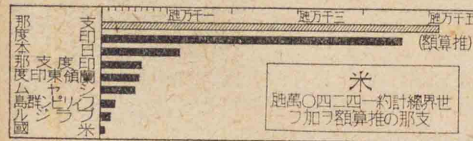
之に加工して、その價值を増さんとする工業と、その需要供給間に立つ商業に分れる。

第一節 農業

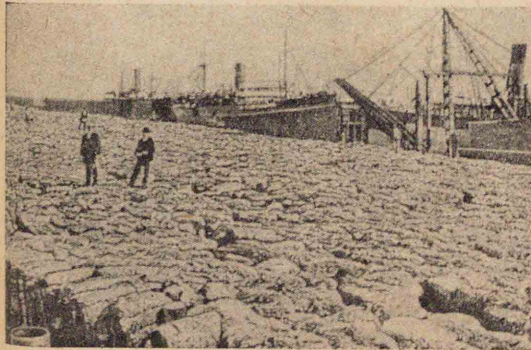
農業地方 文化の古い人口密度の大な地方では、専ら集約的農業が行はれ、人口の疎な地方では、主として粗放的農業が行はれる。又農民には、自作農と小作農との別があり、前者の多い國は健全な農村組織である。農業の最



米國の大農法で機械による小麦の刈取



米業が行はれ、人口の疎な地方では、主として粗放的農業が行はれる。又農民には、自作農と小作農との別があり、前者の多い國は健全な農村組織である。農業の最



米國ガベルスントに於ける綿の堆積

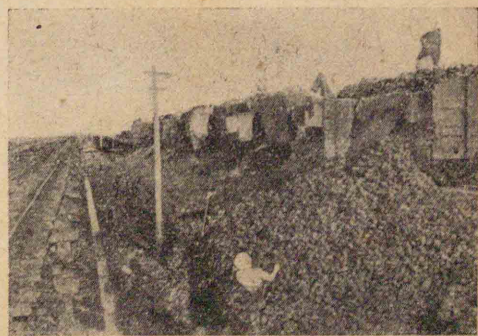
	主 要 産 地	摘 要
米	支那・印度・日本・印度支那・蘭領印度	アジヤの季節風帯を主産地とし、アジヤでは主食物とする。
小 麥	ソ聯・米國・印度・フランス・カナダ・アルゼンチン	冷涼な氣候を好み、歐米人の主食物である。その需要が近年著しく増加した。
砂 糖	甘蔗糖は印度・キューバ・フィリピン・ハワイ 甜菜糖は米國・ドイツ・ソ聯・フランス	甘蔗糖は熱帯・亞熱帯に、甜菜糖は寒冷な地方に適する。
茶	印度・セイロン・支那・日本	東部アジヤは緑茶、南部アジヤは紅茶。
珈 琲	ブラジル・コロンビア・中米・蘭領東印度	ブラジルは全世界の約六割を出す。
綿	米國・印度・支那・ソ聯・エジプト	米國は全世界の半以上を出す。
麻	亞麻・大麻はソ聯・黄麻は印度・マニラ麻はフィリピン・サイザル麻はメキシコを主産地とする。	

も盛なのは、熱帯から温帯に互る平野で、中にも米・茶・綿等を多く産する東南アジヤの季節風帯地方、麥類・馬鈴薯・甜菜・麻等の産に名高いヨーロッパ大平原、小麥・玉蜀黍・綿等を産する北米大平原等である。その他、滿洲國・濠洲・アルゼンチン・エジプト及びシベリヤの黒土帯地方も、主要な農業地方である。

農産物 主要な農産物は、米・小麥等の食糧品、砂糖・茶・珈琲等の嗜好

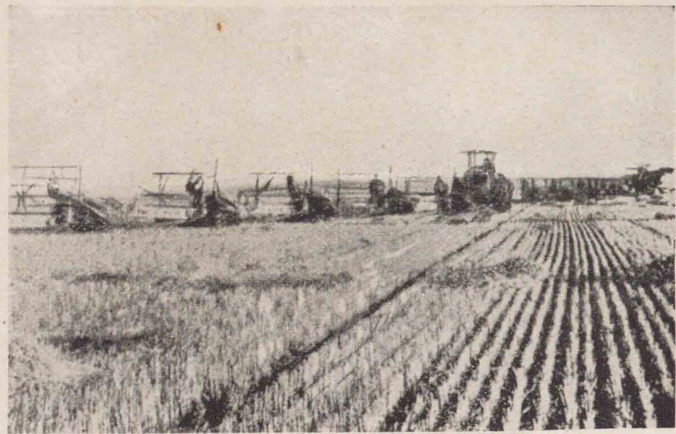
れ、北海道では大豆・馬鈴薯・甜菜・亞麻等の耐寒性農産物を出し、朝鮮では大豆・麥類・粟等が多く、近年全土に亙つて米作が盛となり、一部には綿の産もある。

近年商工業の發達につれ、住民の農村を離れる傾向もあるが、土地の利用、農事改善の餘地は尙多く、殊に收穫の増加を最大急務とする今日、徒らに都市集中は、大いに考慮すべき問題である。



製糖工場に集つた北海道の甜菜

養蠶業 養蠶は周到な注意と、人手を要することが多いから、労働者が得易く、勞銀の安い地方に盛である。我が國では、家蠶を主とし、南滿、北支では柞蠶、中支、南支には天蠶も行はれる。我が國と支那とは、世界の二大養蠶國で、歐洲ではイタリヤのポト河流域と、フランスのローヌ河谷に盛である。



米國の農場 廣漠とした農園に農夫は機械を利用し大規模な農業を行つてゐる



ブラジルの珈琲園 際限もなく波状の小丘が續き其處が一面に珈琲園となつてゐる



北海道の農場 他府縣では見られぬ大規模の農法で新開地らしい氣分が充ちてゐる



羊毛の品位を検査する商人

パ濠洲
及びア
ルゼン
チン等
は主要

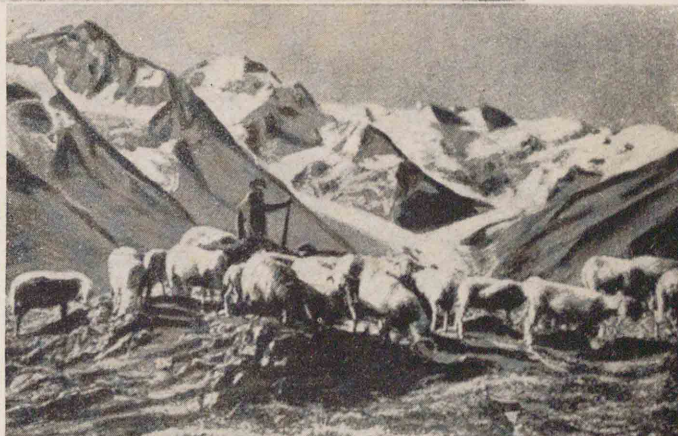
畜	産地	摘要
牛	印度・米國・ブラジル・ソ聯・アルゼンチン	肉・乳・皮等の生活必需品を供給し、又勞役にも使用する。
馬	ソ聯・米國・アルゼンチン・ブラジル・ドイツ	交通運輸を助ける外、軍事上重要である。
豚	支那・米國・ドイツ・ブラジル・ソ聯	主として食用とする。
羊	濠洲・米國・ソ聯・アルゼンチン・ニュージーランド	羊毛は濠洲が世界全産の三分の一を産する。

牧畜地方 家畜は纖維原料・皮革及び食糧等を供給し、或は運輸の機關として、その用が頗る多い。牧畜は概して少雨の草原に適するが、平野が廣く、人口の稀疎な地方には、毛用肉用を主とした大牧場があり、人口の稠密な地方又は山地の多い處では、乳用肉用を主として規模が小さく、副業的ものが多し。アジアの季節風帯・北米の中央平原・東部ヨーロッパ

第二節 牧畜



濠洲の牧羊場 さすがに世界第一の羊毛産地で原野一面が羊の成群に被はれてゐる



スイスの牧畜 後は高山前は深谷 僅に山間の狭い斜面が牧場に利用されてゐる



雲仙國立公園 眺望に噴氣孔に名高い雲仙山麓の白雲牧場で長閑な一風景を添へる

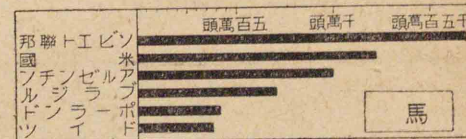
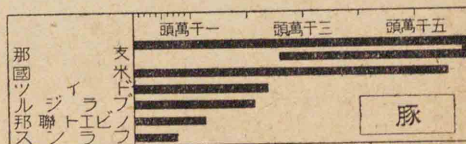
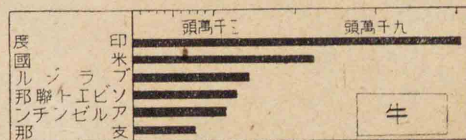
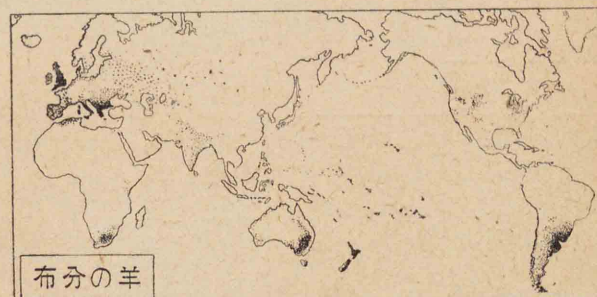
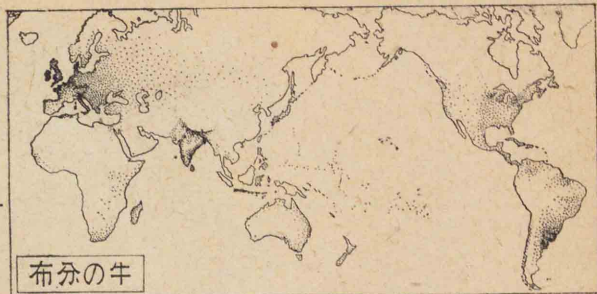


森林地方 森林は、樹木の種類により、針葉樹林・潤葉樹林等に分れ、位置によつて、熱帯林・温帯林・寒帯林等に分れる。主要な森林地帯は、シベリヤ・カナダ・米國・北部ヨーロッパ等で、南米・アフリカ等の熱帯多雨地には、開發を將來に待つ天然の大密林が廣い。

林産物 建築土木用として木材の需要は著しいが、近年紙・人絹・セロファン等の原料としてパルプの需要が激増し、温帯寒帯の針葉樹を原料として、米國では世界の約四割を出

第三節 林 業

して來たが、近年生活様式の變化と共に、保護獎勵も加へられて、進歩の跡は著しいが、到底大規模の實現は望まれない。牛は中國・九州及び朝鮮に多く、馬は北海道・奥羽・九州を主産地とし、豚は臺灣・沖繩等で多く飼ひ、羊はまだ試育時代を脱しない。

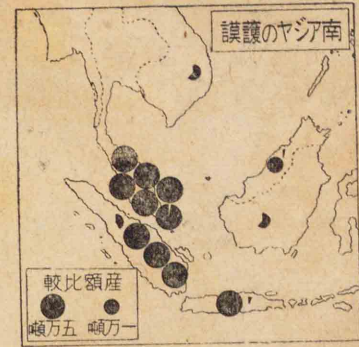


駱駝・アンデス山地の駱馬・アルパカ・西藏の犛牛・寒地の馴鹿等も、地方的に重要なものである。近年養鶏も各地に盛である。

我が國の牧畜 我が國は山地が多く、人口が稠密な上に、古來肉食・毛衣の風習がなかつたので、牧畜は僅に農家の副業として發達

な牧畜地帯となつてゐる。

畜産物 家の種類は多いが、最も重要なのは羊・牛・馬豚等で、此等は氣候に對する



し、我が樺太、北海道にもその産が少くない。ゴムは用途が頗る廣く、マレー地方の栽培ゴムを主とし、南米の天然ゴムは、舊時の地位を失つた。樟樹から採る樟腦は、臺灣の特産で、世界需要の大半を供給する。

我が國の林業 我が國の風土は、森林の繁茂に適し、全面積の半以上は林野であるが、地形の關係上、運材に不便が多く、且木材、パルプの需要が著しい爲、其等の輸入は頗る多い。

第四節 水産業

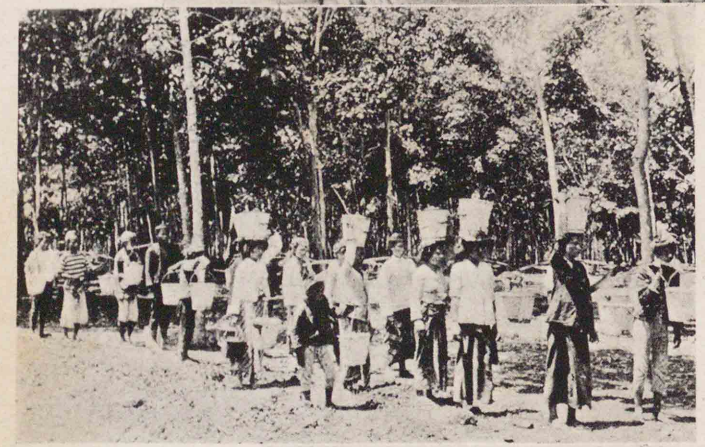
漁業地方 淺海は海藻が繁茂して、魚族の安息所となり、浮游生物が多く、食餌に富む上に、産卵にも適するから、陸棚の廣い寒帯温帯の海面は、よい漁場である。北海、ニュー



(太樺) 觀壯るせ積堆が材木たれさ採伐



レニングラードの木材製材して輸送を待つ木材が多数の大山小山を造つて埠頭に積まれる



マレー地方のゴム林 採集したゴム液の容器を頭上に載せ又は手に提げて工場へ運び行く



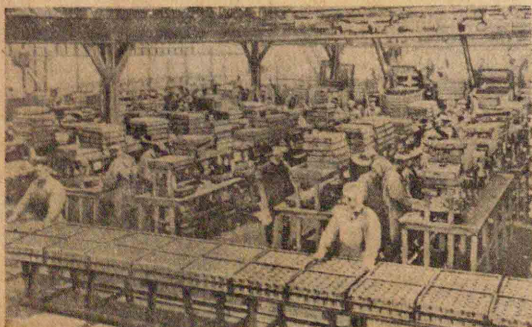
北海道のパルプ工場 苦小牧にある王子製紙會社の工場で累積される木材はパルプの原料

海豹島(日本)
ブリビロフ
諸島(シベリ
ヤ)コマンド
ル諸島(米國)
は臘納獸の
繁殖保護地
である

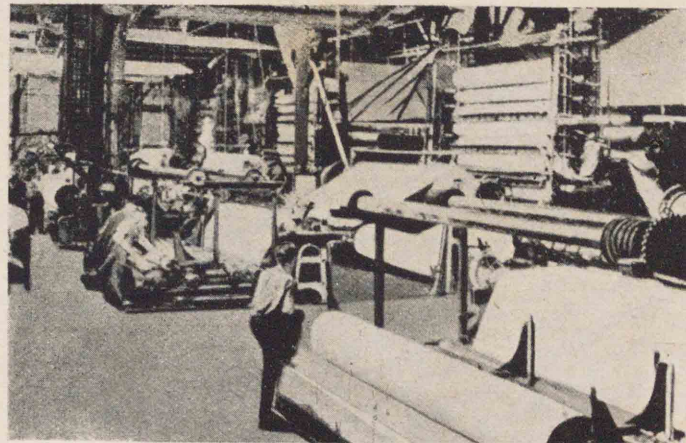


我が國の水産業 我が近海には、陸棚が
廣く、且寒暖二種の海流を繞らしてゐる爲、
漁獲物が甚だ多く、世界第一の水産國であ
る。オホーツク海漁區即ち北洋漁業は、最も
重要な水産國である。
水産物 北海漁場は鯨、鯨等の漁獲が多く、ニ
ーフォンランド漁場は鯨、鯨を主とし、日本漁場は
鱈、鯨、鮭及び蟹等の漁利
に富み、又海藻が多く、この
漁場の北部及び附近には、
臘納獸が多く棲んで良好
の毛皮を供給する。

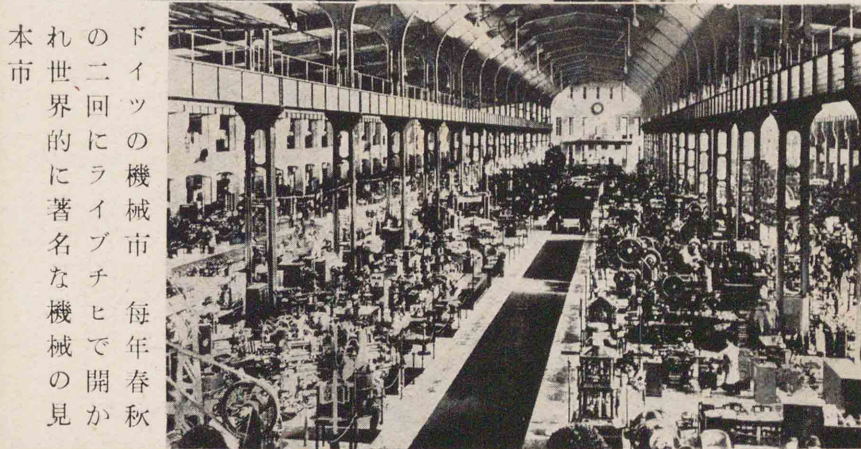
我が國の水産業 我が近海には、陸棚が
廣く、且寒暖二種の海流を繞らしてゐる爲、
漁獲物が甚だ多く、世界第一の水産國であ
る。オホーツク海漁區即ち北洋漁業は、最も



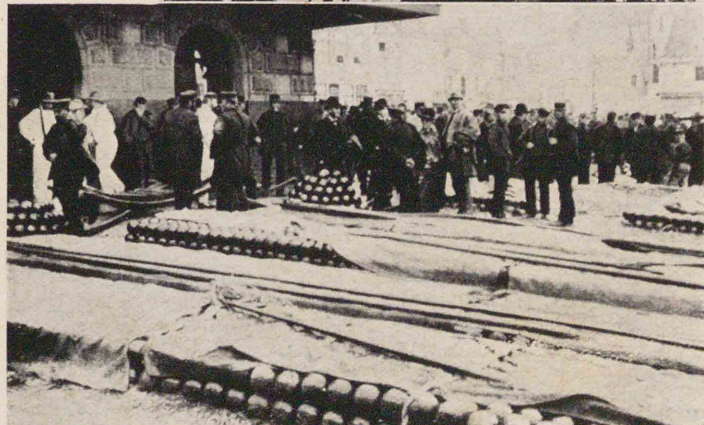
部内の場工詰罐鮭の社會業漁本日



米國の製紙工場 製造され
て間斷なく出て来る紙は一
方から次々に捲枠に捲取ら
れる



ドイツの機械市 毎年春秋
の二回にライプチヒで開か
れ世界的に著名な機械の見
本市



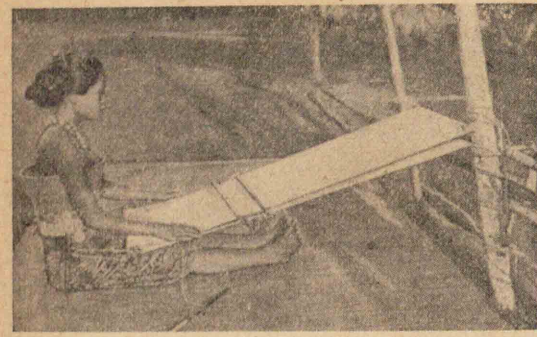
オランダの乾酪市場 大砲
弾の形をした赤い乾酪球を
無數に並べ塵除けの布が懸
けてある

鑛業地方 鑛業の盛衰は、主として埋藏量に支配せられ、氣候風土の影響を受けることが少い。主要な鑛業地方は北米を第一とし、鐵・石炭・石油等の産が甚だ多く、ラテンアメリカ諸國は銀・銅・石油、西ヨーロッパは鐵・石炭、アジアは石炭・石油・錫等を多く産する。

鑛産物 主要の鑛産は金・銀・銅・鐵・石炭及び石油等で、近年石油は、燈用としての價值は減じたが、燃料又は動力用として軍事上産業上最も重視せられ、國際間の油田爭奪が激甚を極めてゐる。

産地	摘要
金 南阿ソ聯・カナダ・米國・濠洲・メキシコ・米國・カナダ・濠洲・ペルー	南阿ソ聯を二大産地とする。メキシコは世界の四割を産する。
銀 米國・チリ・カナダ・ローデシヤ・コンゴ	米國は世界全産の三割を出す。
銅 米國・ドイツ・イギリス・ソ聯・フランス	米國は世界全産の約三割を出す。
鐵 米國・イギリス・ドイツ・ソ聯・フランス	米・英・獨の三國の産は、全産の六割餘を占める。
石炭 米國・ソ聯・ベネズエラ・ルーマニア・イラン	米國は世界全産の約七割を出す。
石油	

石油は米國・蘭領東印度・英領ボルネオ等から輸入する

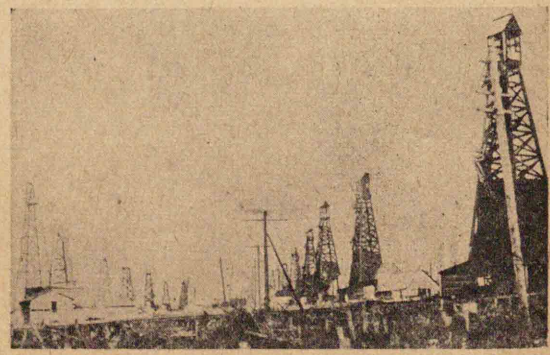


手と腰で織物しめてみるポネルオ婦人

我が國の鑛業 我が國は、鑛産の種類に富むも、産額は概して少い。その中稍、豊富なのは石炭で、全鑛産の五割餘を占めるが、近年國內工業の發達によつて、銅と共に殆ど自給の程度である。石油の産は、手少く種々の人工方法により對策を講じてゐるが、尙需要の大部分は輸入に仰いでゐる。

第六節 工業

工業の發達 工業の初期は専ら手工であつたが、その發達につれて機械工業となり、動力も人力・獸力より、更に蒸氣力・電力を使用するに至つて、工業界に一大變化を來し、大規模の機械力により、大量生産を行ふやうになつた。



北樺太の石油田の光景 日本で根の櫓がある

業 窯	業 工 學 化	業 工 具 器 械 機	屬 金 工	業 工 織 紡	主 要 工 産 物
陶 磁 器	紙 藥 染 人 絹 織 物	科 農 自 造 學 耕 動 船 機 車 汽 織 績 機	製 鐵	麻 毛 絹 織 織 織 物 物 物	綿 絲 綿 織 物
米國が第一とし、日英獨等之に次ぐ。米國が第一の産地で、ベルギー硝子、ポヘミヤ硝子は共に優品として知られ、我が國も硝子工業が盛で優品を出す。英獨米日等の諸國が主産地である。	日米が二大産地で、英伊獨佛等が之に次ぐ。ドイツが人造染料の二分の一を出し、英米二國が之に次ぐ。ドイツが人産染料の二分の一を出し、英米二國が之に次ぐ。ドイツが人造染料の二分の一を出し、英米二國が之に次ぐ。ドイツが人産染料の二分の一を出し、英米二國が之に次ぐ。	ドイツの最も得意とするものである。我が國の機械器具工業は、各方面に互つて著しい進歩をなした。	米國を第一とし、獨英佛白等之に次ぎ、我が國は原鐵に乏しいが輸入鐵鑛によつて製鐵業が頗る盛である。	亞麻布はイギリス、ベルギー、黄麻布は印度に多い。	英米二國が世界の二大産地であるが、近年我が國の輸出綿製品は、世界の王座を占むるに至つた。



工業の發達は、地形氣候原料等の自然的條件と、原料動力交通資本學術等の人文的條件に支配されるものであるから、氣候のよいこと 原料の豊富なこと 動力燃料に富むこと 勞力を得易いこと 交通の便利なこと 資本の潤澤なこと 科學の進んでゐること等は、工業を發達させる主要な要素で、政府の方針國民の才能とも大關係がある。

工業地方 現今工業の最も盛な地方は、その發達の條件を多く具へてゐる西ヨーロッパと、北米の大湖地方とで、世界の二大工業地帯であるが、近年白炭と呼ばれる水力利用の工業が、山地と急流に富む日本イタリヤ等に盛である。

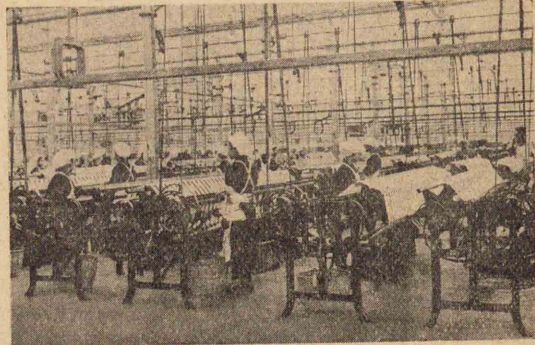
工業物 工業は原料の種類によつて、紡織工業金屬工業機械器具工業化學工業窯業木工業食糧品工業印刷製本工業瓦斯電氣工業等に分れ、生産物の種類は甚だ多い。

我が國の工業 我が國民は、古來手工に長じ、又早く大陸文化に

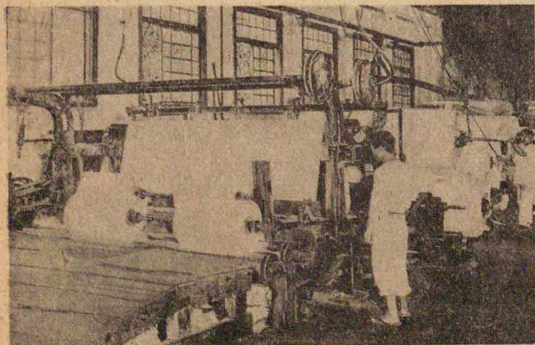
摘

要

機械工業船舶車軸機械等) 化學工業(紙・染料・藥品等) 窯業(セメント・硝子・陶磁器等) 食料品工業(砂糖・小麦粉・罐詰等) 等も著しく進歩して世界の工業國となり、その主要工業地域は、北九州から瀬戸内海・伊勢海駿河灣の沿岸を經

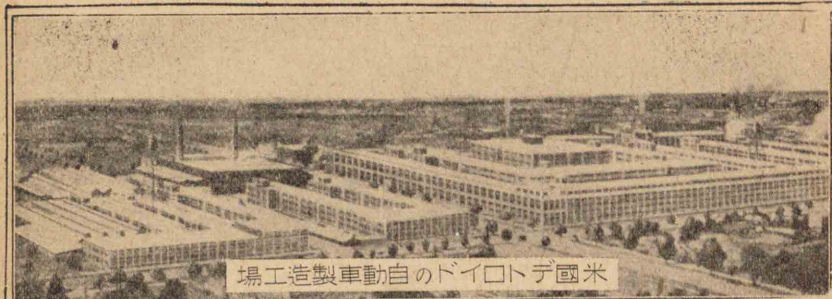


今接して、美術的工藝を特技としてゐたが、機械文明の傳來によつて、近年工業界に革新が行はれ、著しい發達を遂げた。我が工業の特色は紡織工業で、殊に綿製品は世界の王座を占め、人絹製品は米國と共に世界の雙璧となり、毛織物は新進の勢を示し、絹織は古來の妙技である。その他製鐵業

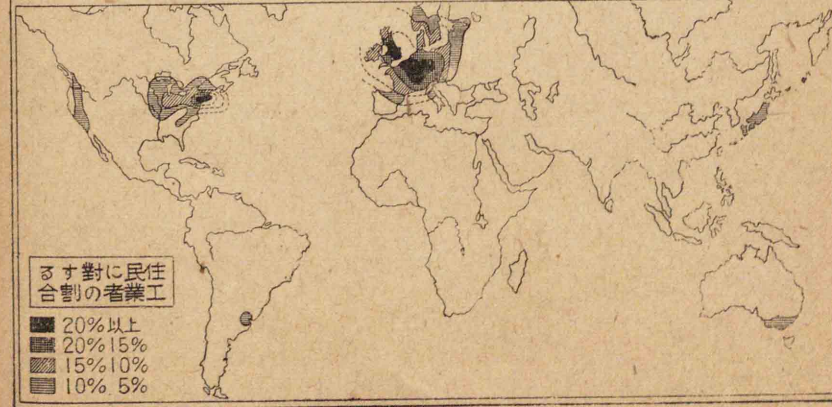
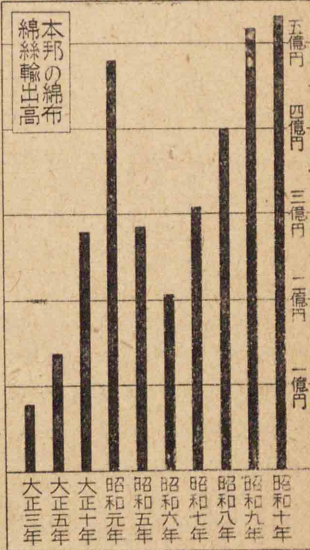
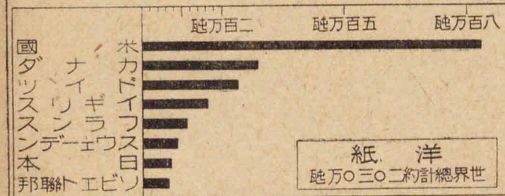
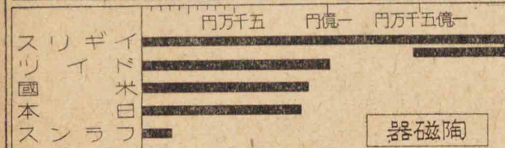


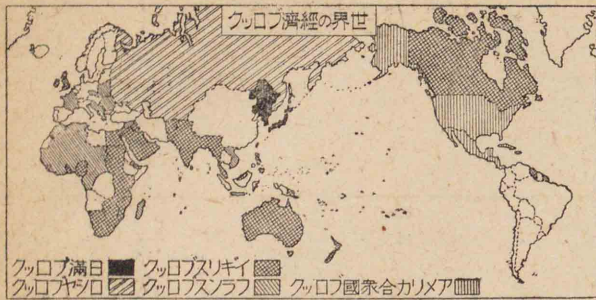
製紙後に輪轉印刷機に捲直す製作場

今接して、美術的工藝を特技としてゐたが、機械文明の傳來によつて、近年工業界に革新が行はれ、著しい發達を遂げた。我が工業の特色は紡織工業で、殊に綿製品は世界の王座を占め、人絹製品は米國と共に世界の雙璧となり、毛織物は新進の勢を示し、絹織は古來の妙技である。その他製鐵業



米國ドイツの自動車製造工場





を順貿易といひ、輸入額の多い場合を逆貿易といふ。又輸入品を自國で消費することなく、他に輸出するのを通過貿易(仲繼貿易)といふ。自國の産業を保護する爲に、輸入品に關稅を課する場合を保護貿易といひ、之に反し、保護の必要のない場合又は通過貿易のみが盛な時は、關稅を課しないのを原則とする、之を自由貿易といふ。近年各國とも經濟上の見地から、強硬に自國の産業を保護し、關稅の率を高めて、輸入の防遏に全力を傾けてゐる。

經濟ブロック 列國の自給主義は、その屬領又は他國と協定して、經濟ブロックを見るに至つた。イギリス、米國、ソ聯邦、フランス等は、その強力なもので、我が國も滿洲國及び新興の支那と提携して、日滿支經濟ブロックを形成した。斯くして自給主義は、一國といふ單位から範圍を擴げて、一團の經濟聯合となり、このブロック内では自由貿易主義により、他に對しては保護貿易主義を採るのが常である。又一國から特に輸入の多い場合は、

て、東京灣岸に至る地區で、此處に四大工業地帯が發達し、臺灣には製糖、樺太、北海道には製材、パルプの工業が盛である。

第七節 商業

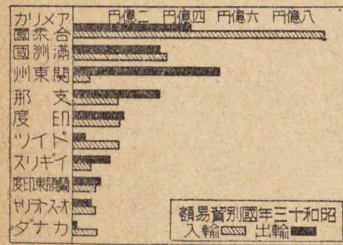
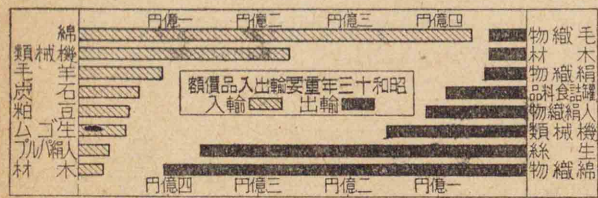
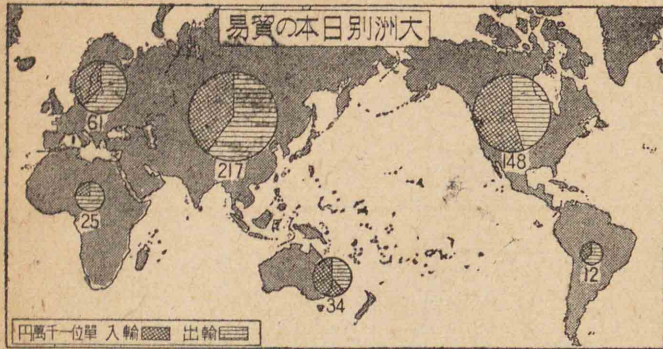
附 觀光業

商業の發達 商業の始めは物々交換であるが、貨幣の使用によつて、商品の移動が漸く活潑となり、その取引が定期市の形で行はれる。今でもアジア及び東部ヨーロッパ等にはこの風が残つてゐる。商品移動の範圍も、最初は極めて狭いが、交通の發達と共に、次第に廣くなつて全國に及び、遂には世界全體にまで擴張される。斯くて、内國商業と外國商業(貿易)との區別を生じた。

貿易 輸出額が輸入額よりも多い場合



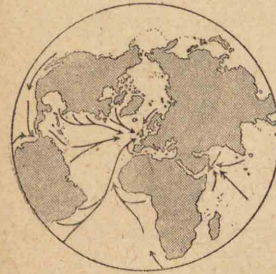
大邱の市で白衣の人の道路を埋める



我が國の貿易 明治元年の我が貿易額は、僅に二千六百萬圓に過ぎなかつたが、日清戦争當時は二億圓級、日露戦争當時は八億圓級、世界大戦中には一躍して四十二億圓級に上り、昭

に位し、ドイツ、フランス、イタリア等も之に次いで盛である。オランダ、ベルギーは小國であるが、中歐への關門に當る爲、通過貿易は甚だ盛である。歐洲に次いで盛大なのは北米で、世界總額の約二割に當り、米國はその大部分を占め、豊富な資源と、工業の大發展とにより、英國と覇を競うてゐる。歐洲諸國の貿易は、概ね原料品、食糧品を輸入し、加工品を輸出するが、その他の諸洲は多く、原料品、食料品を輸出し、加工品を輸入する。

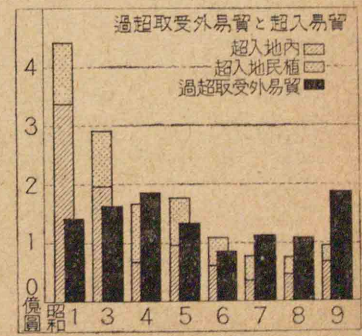
昔の貿易は珍寶、什器、香料等の贅澤品を主とし、だが今は食料品、原料品を主とする



ブリタニアの位置

世界の貿易 貿易の最も盛なのは歐洲で、世界總額の五割餘を占め、中でも英國は、天與の好位置と、盛大な工業の發達と、廣大な植民地と、偉大な商船隊の活動とにより、貿易額は世界第一

その額と略同額の輸出をなし、出入を相殺せんとすることがある、之をバーター主義といひ、世界の貿易上に高唱されてゐる。
貿易外收支 國際間には、貿易勘定の外に、外債の利子、海外投資の損益、運賃、保険料その他の受拂がある、之を貿易外收支といひ、その出入超と貿易額の出入超とを相殺したものが、眞の國際收支となるのである。人口の多い文明國では、貿易は概ね入超であるが、貿易外の収入が多い爲、兩者の決済が容易に行はれ、中には剩餘を生じてゐる國さへある。





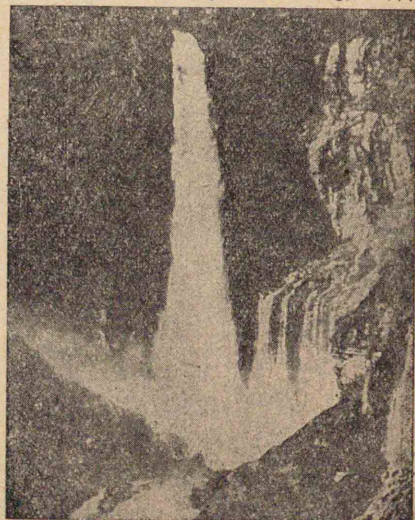
道分踏る池とへ地泉らか地泉が商隊

一種であるが、文化地では、舗装した加工路が修築される。道路は鐵道の發達により、一時その價值を減じたが、

第七章 交通

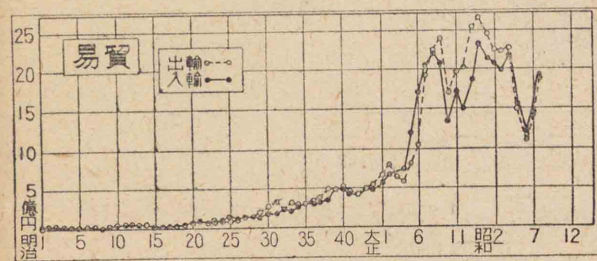
第一節 陸運

斯る處には、宿舎・交通案内等の所謂觀光業が發達し、國家の重要な一財源たることがある。又交通が發達すれば、遠き高山深谷の風景も、短時間で容易に觀賞し得られるから、邊陲の地に國立公園の設定を見ることがある。

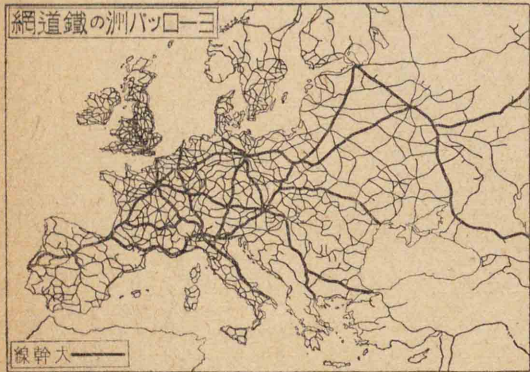
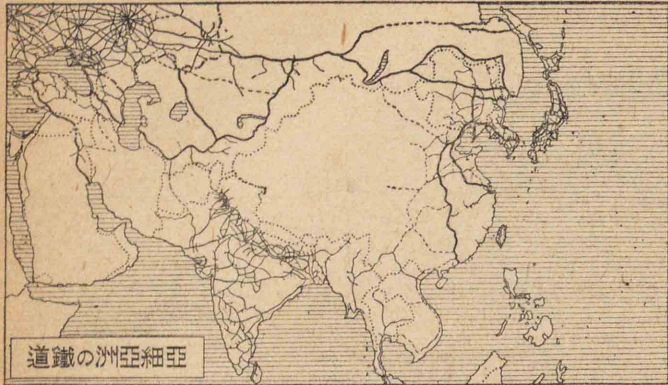


(瀧巖華)一の景風表代本日

昭和十四年の貿易では生絲が輸出の筆頭で約五億圓に及ぶ



和十二年には約七十億圓に達して空前の額を示し、新市場を世界の各地に開拓してゐる。
我が貿易品と取引先 我が國の貿易は、工業の大發展により、原料の輸入、製品の輸出が共に激増し、輸出品は約四億圓の綿織物を筆頭とし、生絲・人絹・機械類・罐詰食料品・絹織物・メリヤス等が之に次ぎ、輸入品は約四億五千萬圓の綿を第一とし、羊毛・石油・鐵生ゴム等が之に次ぐ。
取引先は米國の十九億圓を第一とし、印度・滿洲・國・蘭領東印度・支那・英國・濠洲・獨逸・カナダ等との間に盛に行はれ、取引は大小五十餘の貿易港で行はれるが、その中、神戸・横濱・大阪の三港が、全貿易額の八割餘を占める。
觀光業 スイスや日本の如き、風光の明媚な地方には、觀光・靜養の爲に内外の旅客が多く集まる。

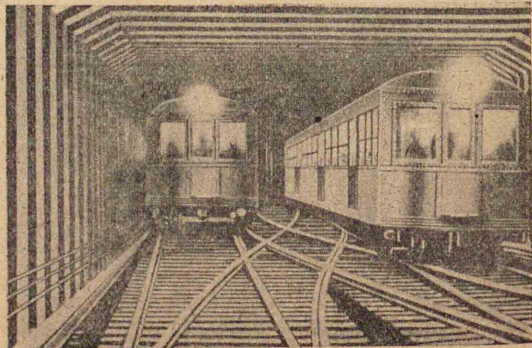


鐵道には鋼索鐵道架空鐵道地下鐵道等がある

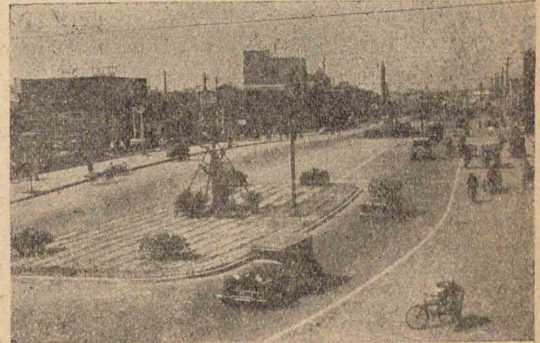
推測する一標準である。又自國所有の鐵道が、他國の領土内にある時は、國力發展の觸角として、大切なものである。

世界の鐵道 世界の列國中、米國は約四十二萬軒の鐵道を有して第一位を占め、ソ聯の八萬軒が之に次ぐ。我が國の鐵道延長は約三萬軒である。アジヤ洲では印度、日本、滿洲國、支那に多く、世界的交通路として大切なものは、シベリヤ鐵道と、バグダード鐵道である。ヨーロッパは世界全線の三割餘を占め、延長は北米に劣るも密度は

次ぐ。我が國の鐵道延長は約三萬軒である。アジヤ洲では印度、日本、滿洲國、支那に多く、世界的交通路として大切なものは、シベリヤ鐵道と、バグダード鐵道である。ヨーロッパは世界全線の三割餘を占め、延長は北米に劣るも密度は



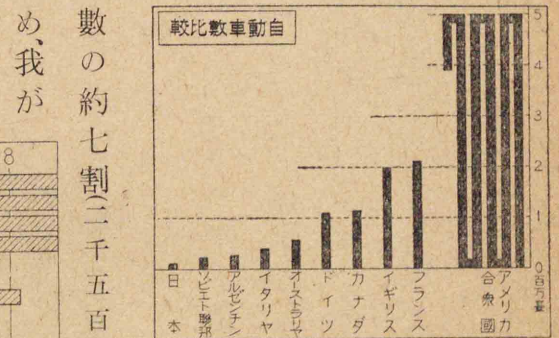
東京地下鐵道の殆どを市横断する



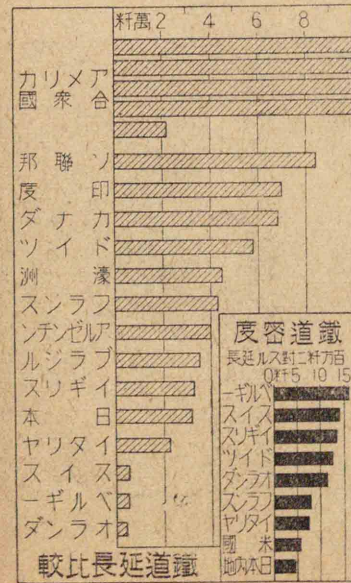
鋪裝の完備せしめたる東京の昭和の通美觀

國も近年著しくその數を増し、約十五萬臺に達した。

鐵道 鐵道は政治上經濟上及び軍事上等に密接な關係があり、その發達は、文化の程度を



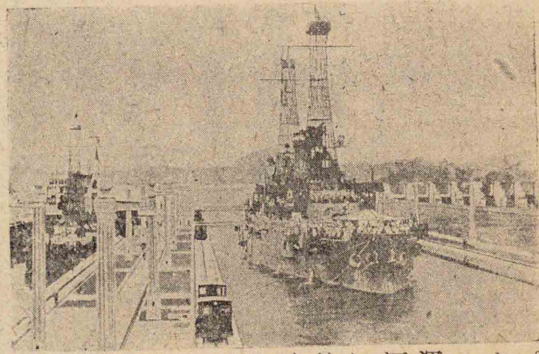
數の約七割二千五百萬臺を有して王座を占め、我が國の約七割二千五百萬臺を有して王座を占



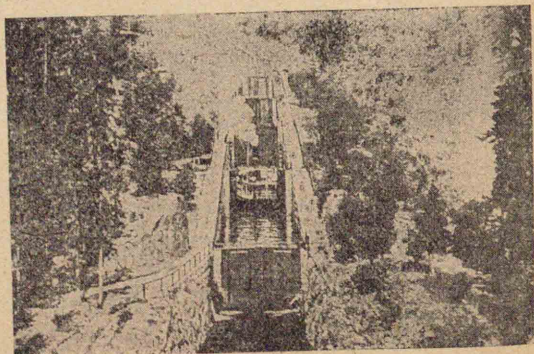
自動車の普及と共に重要性を復活し、都市は勿論、山間僻邑までも、完備した道路が見られるやうになつた。自動車利用の最も盛なのは米國で、世界總

等を連ねる連絡運
河と急流瀑布等を
避ける回避運河と
ある。連絡運河は船
舶の迂回を減じ、距
離を短縮する爲で、
スエズ・パナマの兩
運河はその最も著
しいものである。前
者はリバプール・ボン
ベール間に於いて、約
四七〇〇哩、後者は
ニューヨーク間に於
いて、約八三〇〇哩
を短縮した。

船舶 船は最初、人力で動かしたが、稍進んで風力による帆船が使用せられ、蒸氣機關の發明によりて、巨大な汽船が建造されるやうになつた。汽船の動力には専ら石炭を用ひてゐたが、今は重油又

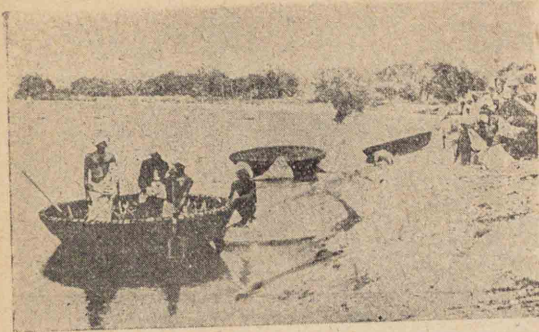


近附門閘ンツガるけ於に河運マナパ



河運避回のーユルノるあの門閘く多

原始的な舟
は今でも處
處に使用さ
れてゐる



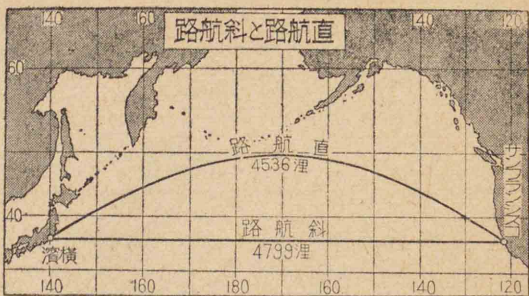
で葉の子椰棗ぶ浮に河スダンイは
舟木丸の方地洋南は 舟籠たつ作

水路 水路には河湖運河海洋等がある。水の浮力を利用して、物を運ぶことは、早くから行はれたが、風波の脅威があるので、最初は専ら河湖海岸のみに限られ、次第に海洋に及ぶやうになつた。

運河は人工的の河川で、河湖海洋

第二節 水 運

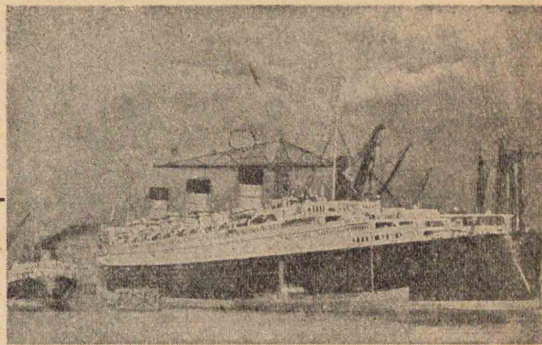
遙に大で、ロンドン・パリ・ベルリン等はその大集點である。アルプ山脈には、大隧道により横斷する鐵道が多い。アフリカ洲ではカイロ・ケープタウン鐵道の工事が進み、北アメリカ洲は全線の四割餘を有し、特に米國の東半に鐵道網が密である。又數條の大陸横斷鐵道もある。南アメリカ洲ではアンデス横斷鐵道が異彩を放ち、濠洲では東西横斷鐵道が完成した。



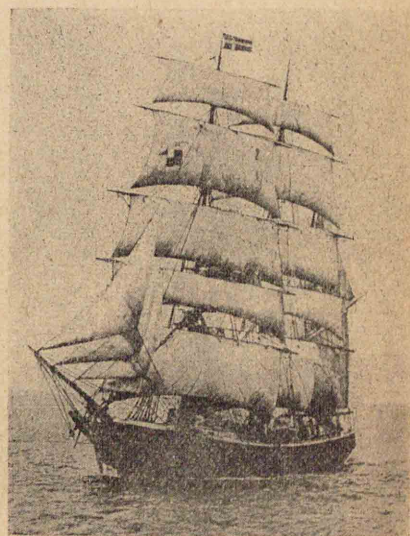
一を有して之に次ぐ。我が國は四百二十萬噸を有して世界第三位にある。

主要航路 汽船が大洋を航海する際には、二地點間の最短距離を航行する。之を大圈航路又は直航路といひ、海圖上で二港間を結んだ直線を斜航路といふ。世界の航路中、往復の最も頻繁なのは北大西洋航路で、旅客を輸送する外、北米に産する食糧品原料品と、歐洲の製品とを交換する。従つて世界船舶の二分の一と、世界最大の巨船、最速の客船は多く此處に就航し、大西洋を四日間で横斷する。之に次ぐは歐洲と印度東亞濠洲を結ぶ印度洋航路、東亞と米國とを結ぶ北太平洋航路等である。

我が國の海運 地理的位置の良好と、海國的精神の發露とにより、長大足の進歩をなし、世界屈指の海運國となつた。我が船舶の五分の四は遠洋航路に従事して、世界の各地に活躍し、その運賃は、貿易の入超を補ふ重大な財源となつてゐる。



噸千三萬八で號ーリメンイクの國英

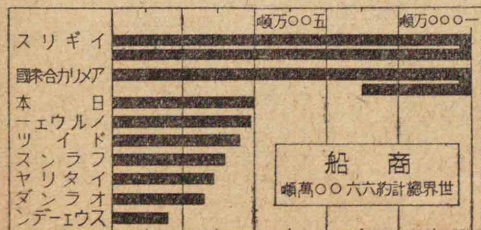


船帆横たれら張に横が帆

帆船は速力が遅く、且風と海流とに左右されて大迂回をする場合が多く、發着時の正確を期し難いが、運賃が低廉な爲、容積の大きな原料燃料等の輸送には、汽船全盛の今日でも、尙相當に利用されてゐる。

世界の船舶噸數は約七千萬噸で、英國はその約三分の一を有して世界の王座を占め、米國は約五分の

は石油を用ひるものが多く、又電氣装置によるものも出來て、速力三十節以上の快走船を生じ、八萬噸以上の巨船も浮ぶやうになつた。

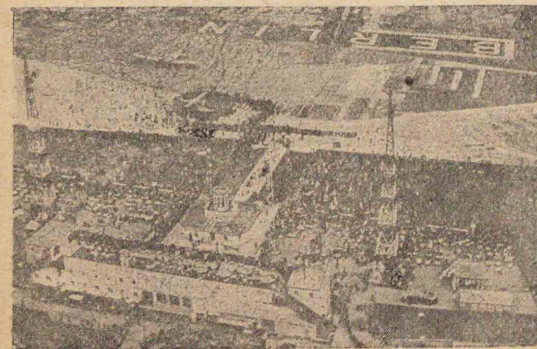
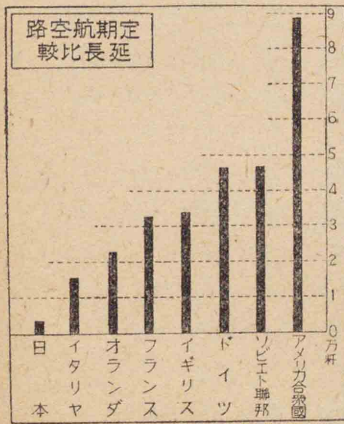


航空機は古い時代は軽気球であつたが後に飛行機飛行船が出現し特に世界大戦の結果飛行機が長足の進歩をなし軍事上の作戦を一變せしめるに至つた

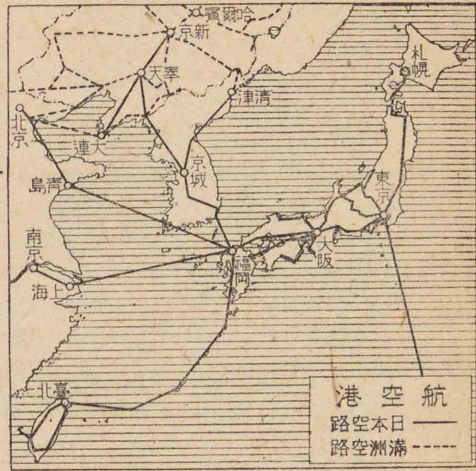
第三節 空 運

航空路 空路は陸路や水路と異なり、水平にも垂直にも航行し得られ、且二點間の最短距離を快速に飛ぶことが出来て甚だ便利であるが、天候に支配されることが多く、刻々の通報を受ける爲に航空無線電信局を設け、夜間航空の爲に航空燈臺を備へ、又不時障害の爲に中間着陸場の必要もある。されど輸送量が小であるから、今日の航空は、尙郵便物と旅客の輸送とに限られてゐる。

航空港 飛行機の發着場を航空



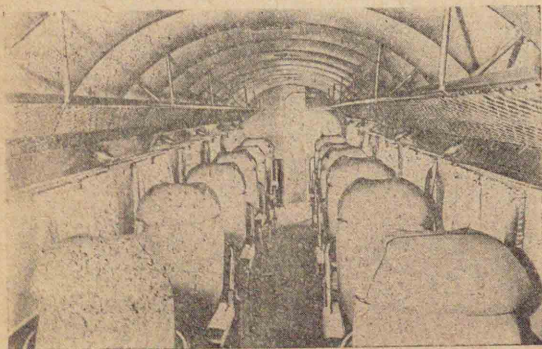
いよる頗が設施で港空航のソリルベ



達するには、何れも約十時間を要する。

第四節 通 信

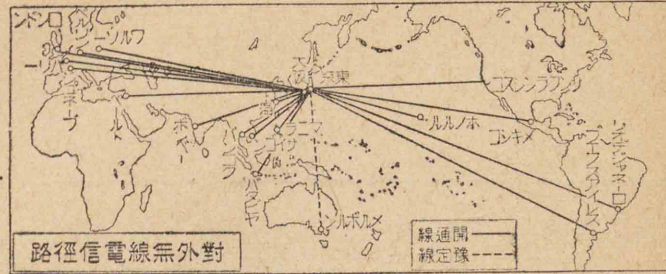
郵便 我が國は、明治四年に始めて東京・京都・大阪間に郵便制度を實施し、明治十年に萬國聯合郵便條約に加盟し、その後普及



席客るけ於に部内の機行飛客旅が我

港といふ。飛行場地上標識無線電信局格納庫修繕工場等を備へてゐるのが普通であるが、國際的大航空港には、税關・ホテル等の設備さへある

我が國の航空路 我が航空路は、北海道本州・臺灣を連ねて列島を縦貫し、又朝鮮・關東州に至るものは、滿洲國及び支那の空路に連絡する。飛行機で東京から新京・天津・臺北等に



米諸國の放送も、坐ながらにして
聽かれ、益、萬國比隣の感を深める
に至つた。



送放繼中の聲啼の鳥小

との通信が盛に行はれてゐる
電話 我が電話は、明治十年東京横濱間に通じたのが始で
三十二年には東京大阪間の長距離電話が開通し、今では全國
到る處に普及してゐる。無線電話は各大陸間に行はれ、我が國
でも滿洲國・フィリピンより、遠く歐洲英獨等、米國南米アルゼンチ
ン・ウルグアイ等々の諸國と通話が開かれ、又近年テレビジョン（無
線電視話）も行はれるやうになつた。
ラヂオその他 ラヂオは、近年世界の各國によく普及し、我
が國では、各地に放送局があ
つて、國內放送が盛に行はれ
る外、對外放送をもなし、且歐
米諸國の放送も、坐ながらにして
聽かれ、益、萬國比隣の感を深める
に至つた。

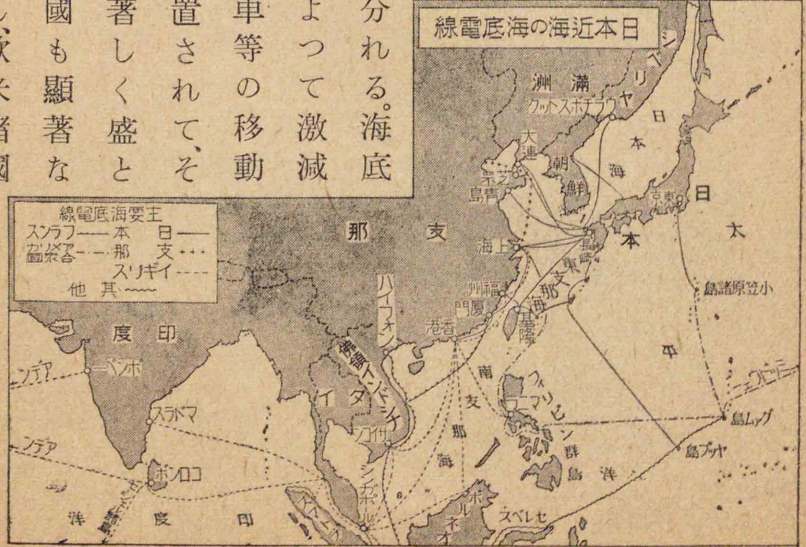
と制度の完備は、世界に類がない。
近年航空郵便も實施された。

電信 明治二年に始めて東京
横濱間に電信を通じ、明治十二年
に萬國電信條約に加盟し、今は海
上の孤島も、電信の通じない處は
殆どない。電信には有線と無線と
あり、有線は陸上線と海底線とに分れる。海底
電信の利用は、無線電信の發明によつて激減
したが、無線電信は船舶飛行機、列車等の移動



海面と線電底海
物にも装置されて、そ
の利用は著しく盛と
なり、我が國も顯著な
發達を示し、歐米諸國

線電底海の海近本日



第八章 政治

第一節 國家の組織

國家の要素 人は團體生活を營み、社會を形成してゐる。その團體が一定の土地を占め、主權の確立してゐるものを國家といふ。即ち土地・人民・主權は國家成立の三要素で、この要素の實質如何により、國家に強弱の別を生ずる。

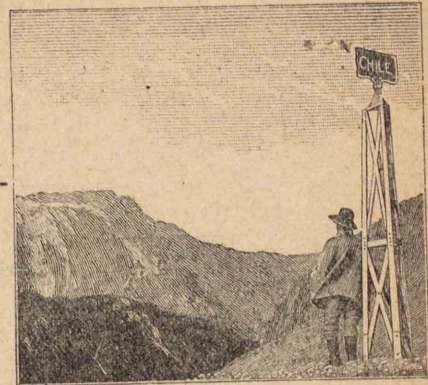
國體と政體 國家は主權の所在によつて、國體を君主國と民主國とに分ける。前者は主權が一人の君主に屬し、後者は國民の全體に屬する。民主國では、國民が代表者を選んで之を元首とし、國政を總理させるから、一に共和國ともいふ。又主權運用の形式によつて、政體を立憲政體と專制政體とに分ける。前者は憲法を設けて爲政の大本を規定し、之によつて國家を統治し、後者は主權の行使を、全く君主の獨裁專斷に委するものである。此等はその歴史・國情等に

よつて定まるものであるが、文明の進歩に伴ひ、立憲政體を採つて廣く國民の意見を容れ、專制政體は殆どその跡を絶つやうになつた。又自治權のある數國或は數州が、集つて組織せる國家を聯邦又は合衆國といふ。我が國は萬世一系の天皇を戴く立憲君主國で、國體の尊嚴は世界無比である。

國家と民族 國家が單一の民族から形成されるのを單族國といひ、二民族以上から成るものを複族國といふ。單族國は統治上に便であるが、複族國は民族の融合上種々の困難がある。

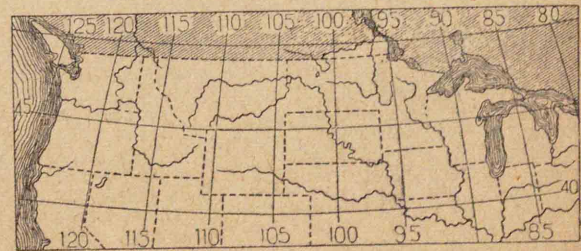
第二節 國家の版圖

國境 國家の主權の及ぶ範圍をその國の版圖とし、之を限定する界線を國境といふ。國境は山脈・河湖海岸線等の自然物によるのが普通であるが、適當の地物を缺く場合には、人爲の境界を設定することがある。人爲的境界は經緯線により、又は塹溝・土壘・空標柱

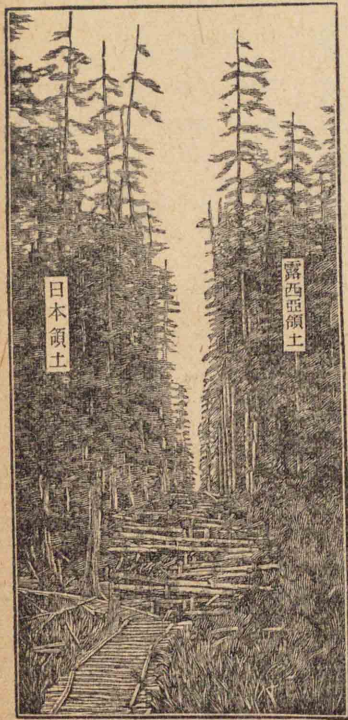


線と一致してゐる。

チリ境等に設けて、限界を明瞭にする
とあることが多い。我が鮮滿の國境は
アール・ザンセルの例で、樺太の國境
は自然の境界の例である。世界
は人為的境界の例である。世界
大戰の後、民族國家の誕生を見
るに至つたが、その國境は一層
人為的なもので、略、民族の分布



經緯線によつて定められた米國の州界



樺太の境界をなす森林

國境は國家の摩擦面とも呼ばれ、國際紛争の惹起し易い處であるから、兩

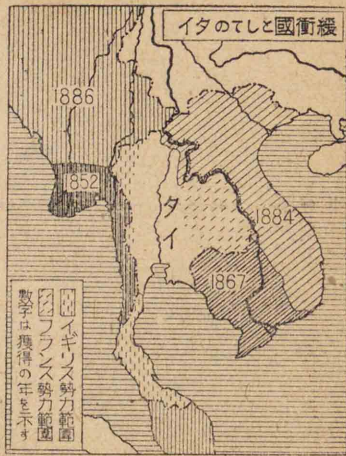
國の間に中立地帯を設定し、或は緩衝國を設けることがある。

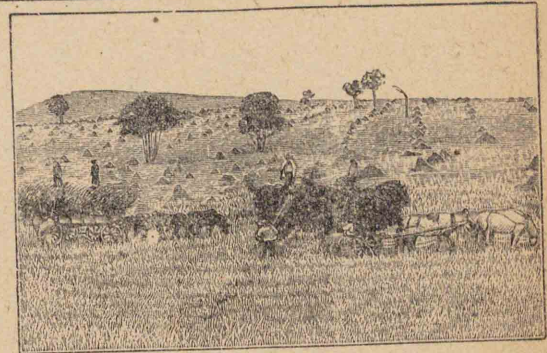
領海領空

海に面する國家では、その産業を保護し、安寧を保つ等の必要から、一定の海面を、その國の領有とする、之を領海といふ。領海は干潮時の海岸から、三哩以内と看做すのを通則とする。領海は領土の延長であるから、我が國の如き海國では、海面上に於ける版圖が甚だ廣い。又近年航空術の發達につれて、領土の上空一切を領空と稱し、その國の許可がなくては、上空の航行が許されない。

植民地

國力が増進すれば、本國以外に土地を求め、過剰の勢力を移す、之を植民地といふ。植民地には炭水の貯藏、無線電信局の設置、海底電線の中繼等を目的とする交通植民地もあるが、最も大切なのは、本國の移民を收容せしめる移住植民地と、資本を投下して生産の開發を目的とする投資植民地である。





地民植住移るけ於にヤリラトスーオ



(搬運ナナバ)地民植資投るけ於に度印西

植民地には、特殊の法律を設けて治めるものがある。之を政治上から類別すると、次の如く分れる。

- 自治領 カナダ、オーストラリア、聯邦、南アフリカ、聯邦等の如く、文化が発達して自治権を有し、

政治上、本國と對等な關係にある。

直轄植民地 住民の文化が、未だ自治を許すに至らない爲、本國政府で直轄してゐるもので、セーロンの如きはその例である。

保護地 主權の一部又は全部を、宗主國に委任せるもので、佛國の安南、英國のオマーンに對する關係はそれである。

租借地 條約上、一定の期間を限り、他國の領土に統治權を行ふもので、事

實上は領土と違はない。廣州灣はその例である。

勢力範圍 一國が他の領土又はその一部を選んで利權を確定し、列國に宣言し、或は默認を得て、政治上、經濟上の特權を有する土地。

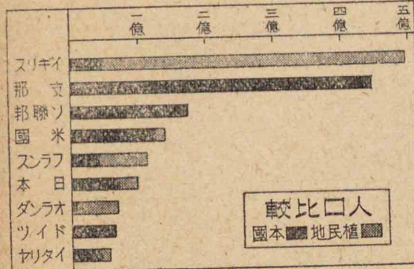
委任統治 ドイツ、トルコ等の舊領土で、世界大戰の結果、本國から分離した土地を、國際聯盟管理の下に、他の國家に統治を委任した土地。

第三節 國 勢

國力 世界には六十餘の國家がある。大小強弱は極めて區々で、僅に獨立の名を保つに過ぎないものもあり、一國の言動が、世界の大勢を支配するものもある。總て國家は、人口の増加、版圖の増大、經濟の膨脹等により、絶えず成長せんとしてゐる。交通、軍事等の要地獲得は、即ち國家増大の前提で、之を國家の成長・尖端といふ。今日の列強は、次第に成長尖端を擴げ、勢力を膨脹し來つたもので、強大な國家は版圖も廣く、人口も多く、産業も進み、兵備も整ひ、財政も強固

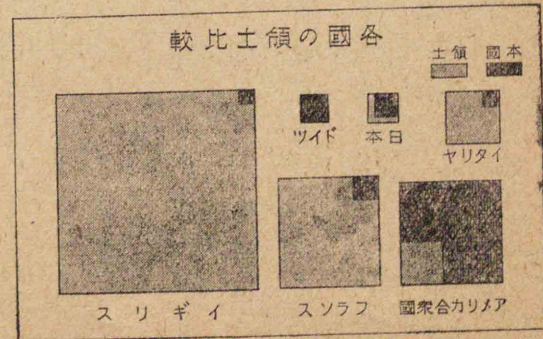
であることがその要素である。

版圖 世界の列強中、本國の著しく廣いのはソ聯邦、支那、ブラジル、アメリカ合衆國等、何れも我が國の十倍に餘り、植民地の特に廣いのは英、佛の兩國で、イタリヤ、ベルギー、オランダ等が之に次ぐ。版圖の大小は、國勢と密接な關係を有するは勿論であるが、その廣狹と



國家の強弱とは、必しも一致するものではない。ブラジル、支那等が、その例を示してゐる。

人口 國民の多少も、國家の勢力と緊密な關係を持つてゐるが、數よりも寧ろ質であり、特に國民的團結力が大切な問題である。我が國の人口は一億に近く、且他の人口の多い國家が、概ね

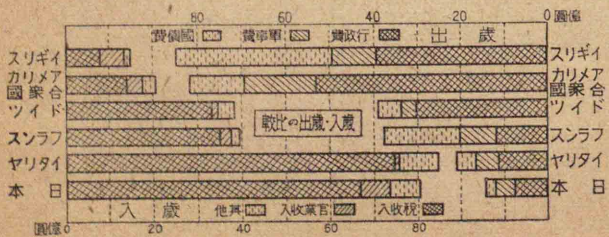
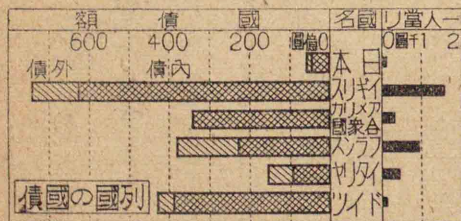


異民族の集合であるに反し、我が國民の大多數は、一家一族の關係を有する大和民族であることに、無限の強味がある。

財政 國家公共の經濟を財政といふ。國家の歳出は、國力の伸張と共に増加するのは當然であるが、如何なる部門に費途が多いかは、國情によつて異なる。歳出に應ずる歳入は、租税、國營事業の益金等を以て充てるが、一時に多大の費用を要する場合には、國債を起す

ことがある。我が國は、近年各方面に大發展を遂げて、國費は年と共に膨大し、國債も頗る巨額に上つてゐる。國民は勵精勤勉、よくこの負擔に堪へる力を養はねばならない。

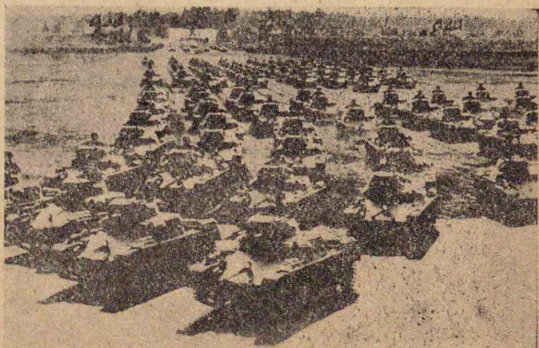
第四節 國際關係



外交 文明國の間には、條約を結んで外交官を交換する。外交官には大使・公使等があり、何れも外國に於けるその本國の代表者である。又通商關係の深い處には、領事・領事總領事を派遣して在外國民を保護し、通商の便宜を計つてゐる。斯くして各國は、互に親善和協に意を注いでゐるが、國際間の關係は、親善といひ協約といふも、畢竟自國の利益擁護を主とするもので、身を殺して仁を爲すべき個人的道義とは、著しく異なる點がある。東亞の新秩序建設に邁進する我が國は、歐洲に於いて略事情を同じうする獨伊の兩國と、互に東西に於ける指導的地位を認め、三國同盟を締結してゐる。

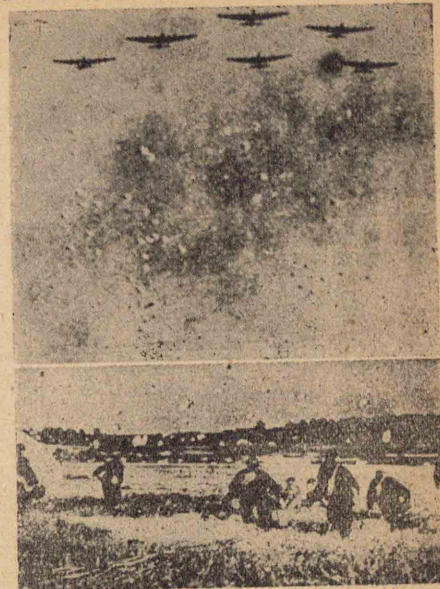
國際聯盟 前の世界大戰後、戰爭の防止、國際紛争の平和的解決及び人類共同の福祉を標榜して成立したもので、我が國はその創立當時から重要な地位を占めてゐたが、滿洲國の獨立に對する意見の相違により、脱退の餘儀なきに至つた。畢竟歐洲に於ける舊體制の遺物で、その後脱退する國が續出し、殊に今次の歐洲戰亂で、全く有名無實のものとなつた。

國防 列國は互に平和を希望してゐるが、國家の利害が衝突すれば、最後の手段として、戰爭も避け難い場合が起る。軍備は敵國を降伏せしめる直接力であると共に、又相手國に戰爭を回避せしめる威力ともなる。軍備には陸軍・海軍・空軍等があり、各國情によつてその主力を異にするが、近年専ら空軍に力を注ぎ、又兵器の改良・發明に全力を傾け、軍備を機械化するやうになつた。



新鋭を競ふ近代兵器(ドイツの戰車隊)

我が國の陸海軍は、已に優秀を以て知られ、空軍の威力も世界を驚かしてゐるが、對岸の一部には、抗日の餘勢が尙残り、更にその間隙を窺ふ虎狼の輩も尠からざる今日、自國の權益を擁護し、若き滿洲國及び更生の支那政府を扶け、東亞の新秩序を建設する爲には、之に必要な軍備の充實は、極めて緊切な問題である。



傘下落の軍獨たれらひ用で蘭和

戦争 戦争は、民族又は國家の如き、人類集團の間に於ける武力闘争で、國民は生命財産を犠牲として、努力の極致を盡し、生存競争の最高表現である。従つて往々悲惨の結果を招くことは、古來歴史の示す所で、その防止策は屢講せられたが、却つて各國は、戦備に汲々たる實情である。

一朝戦争となれば、戦時統制の必要が起る、即ち工業を軍需化し、又物資の需給を策する如き**經濟統制**と**精神を緊張せしめる思想統制**である。國民はこの物心兩方面の統制に服し、戦争に勝つ爲には、如何なる負擔犠牲をも甘受する覺悟がなくてはならぬ。

第九章 世界に於ける我が國の地位

第一節 我が國土

恵まれた位置 我が國は、アジア大陸の東縁、太平洋の西北部に位し、西は資源の多い滿洲國支那を控へ、北は水産林産鑛産に富むシベリヤに接し、南はゴム・石油・羊毛等の豊富な蘭領東印度及び濠洲に臨み、東は遙に物資の豊かな新大陸に對してゐる。

太平洋 太平洋は、日本の前面に擴がる世界最大の海面で、我が交通貿易の發達を助けてゐるが、一朝他國と事を構へた場合には、その攻撃を阻むか、然らざるも攻撃力を著しく削減する防禦となり、平時に於いては我を利し、戦時に於いては我を保護する天然の大溝である。

幸福な島國 我が國が永く島國であつたことは、著しい幸福を齎してゐる。島は大陸の動亂に關係なく、文化を創造し、保有し、その特質を永存する。我等の祖先は、此處を安住の樂土として、この風土に親しみ、且憧れて來た。

四季ある氣候 我が本土は、溫和な温帶季節風帶を占める。若し南に偏すれば乾雨の二季となり、北に位置すれば寒温の二季とな



富士靈の山を背景とする農村の秋

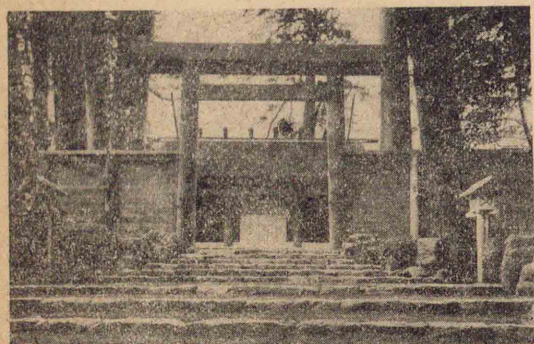
富つて、共に氣候は單純であるが、我が國は四季の別が明で、且沿岸には、北上する暖流と、南下する寒流とあつて、益、氣候を多様ならしめ、住民に好適の刺戟を與へる。

美しき風景 風光の明媚な我が國は、曠に匂ふ遠山の櫻の色にも、汀に茂る磯馴松の潮の香にも、風に戦ぐ尾花に見添へる富士の姿にも、垣の眞竹を曲げて積る雪の朝にも、日本的な風趣が満喫される。日本風景の特徴は、火山性景觀と、海岸性景觀との合作で、之が四季折々の天候によつて情趣を變へ、その景觀が一層多彩となり、國土を擧げて世界稀に見る一大公園たらしめてゐる。

第二節 我が國民

發展性の國民

我等の祖先は、この土に生れ、この土に育まれ、神代の昔から、既に米作、養蠶、織布等の術を傳へ、その後、儒教、佛教等の傳來もあり、下つて西洋文明の渡來もあつたが、よく之を醇化して、獨特の日本文化を醸成し、國威は伸張し、國力は強大となり、今や新進の大強國として仰望されるに至つた。肇國以來數千年、一貫した



我が國の肇祖を奉祀せる天皇大神宮

我日本精神(天和魂)は、忠君愛國を根本とする日本固有の民族性で、國初から存在した精神であり、現在日本人の持つ精神であり、將來持つべき精神であり、且必ず持たしめねばならぬ精神である。

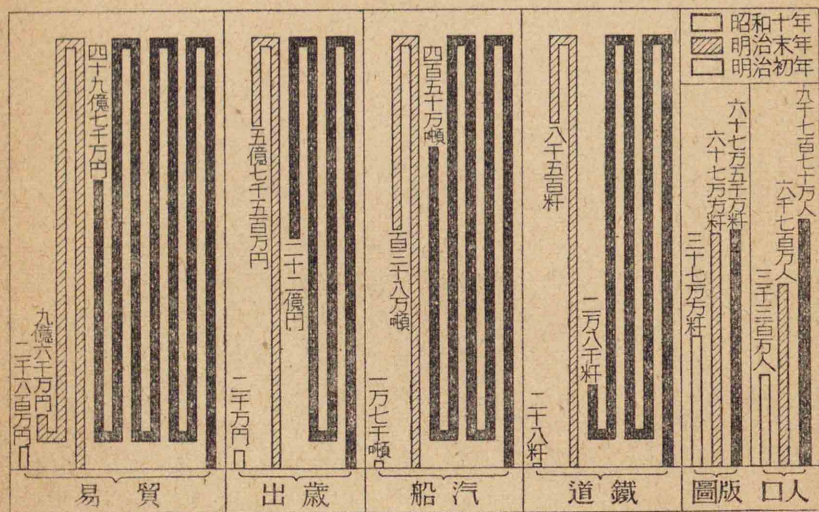
世界無比の國體

我が大日本帝國は、萬世一系の天皇之を統治し給ひ、寶祚の隆頌、天壤と共に無窮である。建國以來、上に仁慈の皇室を戴き、下は國民が忠孝の念に篤く、

忠孝一本、家國一體、君臣の情は父子の如く、國を擧げて一大家族をなしてゐる。斯る君民一如の國家は、世界に求めて得べきでない。全く世界無比の國柄である。

第三節 我が發展

日本の躍進 世界の列強、殊に歐米諸國が、現在の盛大を來たしたのは、多大の年月を重ねた結果であるが、我が國の進歩發展したのは、明治以來僅々六十年來のことである。試に明治の初年と末年とを比べ、更に昭和の今日とを比較すると、その進歩の速かなことは世界に比類がない。殊に最近の顯著なる大躍進は、世界各國の驚異を招き、或は政治上から國力の伸張を妨げんとし、或は軍備上から勢力の進展を抑へんとし、或は經濟上から商品の進出を阻まんとして、畫策するものも少くない。我が國が國際聯盟を脱退することになつたのも、華府條約の廢棄を通告することになつたのも、畢



竟は其等の結果で、近年支那事變を繞り、複雑な列強の動きは、大いに警戒の必要がある。

國民の覺悟 吾等は斯る四圍の情勢を洞察し、自重、自奮、徒らに外來思想に醉ふことなく、浮華輕佻に流るゝことなく、光輝ある國史の精華に鑑み、質實剛健の美風を養ひ、恐れず屈せず、政治上、軍事上の激烈な壓迫に備へねばならぬ。今や南京には新國民政府が樹立され、歐洲に於ける舊體制は、將に壞滅に瀕せんとし、爲に東亞の事情も、著しく變化せんとする。

る。この千載一遇の秋に當り、國民は新體制の趣旨に順應し、億兆心を一にして、躍進途上にある祖國に、榮えある勝利を齎らさねばならぬ。

中等最近地理概説 改訂版 終

(略名) 三省編輯所

昭和十二年十一月二十五日
昭和十三年十月二十五日
昭和十六年一月十五日
修正三版發行
修正三版發行
修正三版發行
修正三版發行

中等最近地理概説(改訂版)
定價金八拾壹錢

著者

三省堂編輯所
代表者 龜井豐治

發行者

東京市麴町區飯田町二丁目二十番地
中等學校教科書株式會社
代表者 山本慶治

印刷者

東京市蒲田區仲六郷一丁目五番地
株式會社 三省堂蒲田工場
代表者 岸本玄男

發行所

東京市麴町區飯田町二丁目二十番地
中等學校教科書株式會社
日本出版文化協會會員番號 一一七五二二

配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二ノ九

Remembers following sentence.

- Lesson 7. Relations to Others.
- Lesson 8. Ambitions and Reservations.
- Lesson 17. Self-Reliance
- Lesson 19. Getting the right Start
- Lesson 27. Reading
- Lesson 28. Influence of Character
- Lesson 29. Making up one's mind.

船橋

広島大学図書

2000014528



文庫
41
528